

4 安全・安心に関する質問

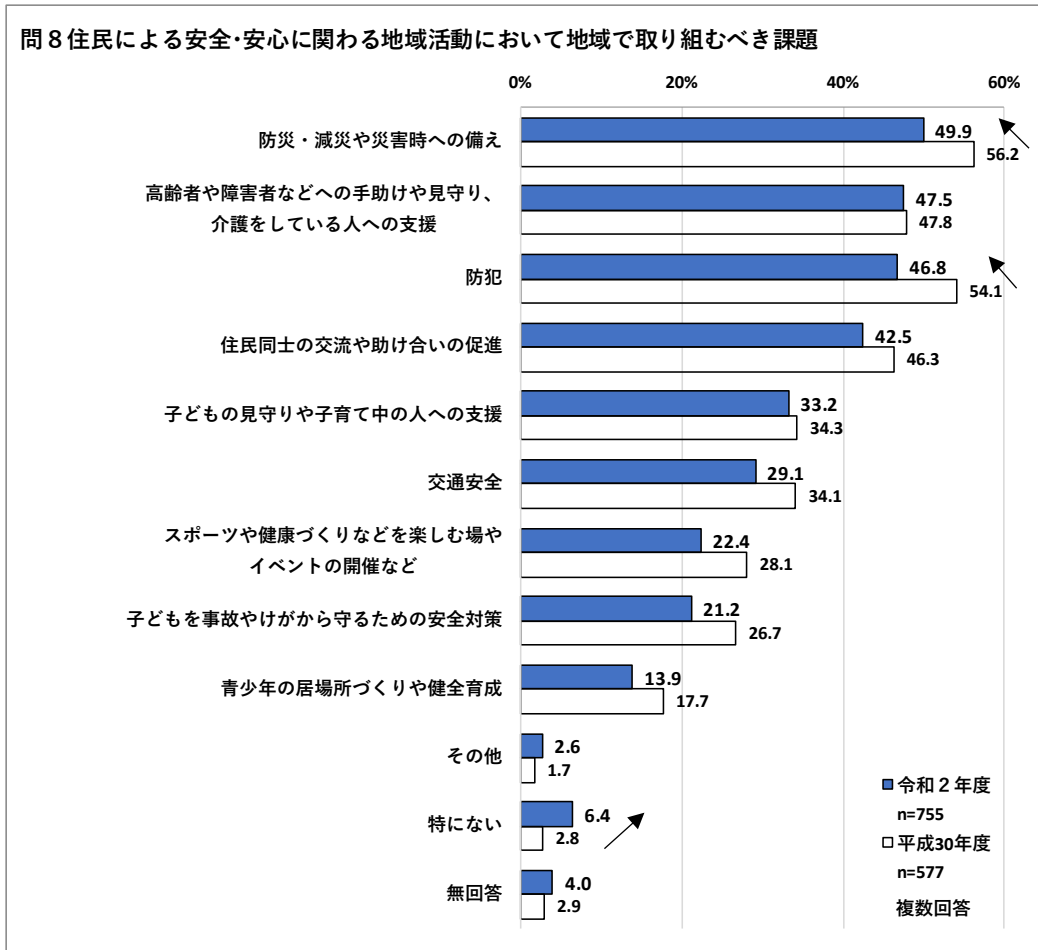
(8) 地域で取り組むべき、安全・安心に関わる地域活動

<全 体>

・住民による安全・安心に関わる地域活動において地域で取り組むべき課題で最も多く挙げられたのは「防災・減災や災害時への備え」で49.9%、次いで「高齢者や障害者などへの手助けや見守り、介護をしている人への支援」(47.5%)、「防犯」(46.8%)、「住民同士の交流や助け合いの促進」(42.5%)の順となりました。一方、「青少年の居場所づくりや健全育成」を挙げた方は2割以下となっている。

<平成30年度調査と比較>

・平成30年度調査と比較すると、全項目で減少しており、特に「防犯」で7.3ポイント「防災・減災や災害時への備え」で6.3ポイント減少している。一方、「特にない」は3.6ポイント増加している。



問8 住民による安全・安心に関わる地域活動において、地域で取り組むべき課題 (その他記述)					
道路・歩道整備の課題	6	近隣住民との関係・コミュニティ	5	福祉支援・サービス	5
街路樹の伐採等、災害時に備えた整備 自転車運転マナーの指導 植木の剪定等の歩道整備 柏尾川の氾濫対策・笠間の線路沿いの道路整備 歩道整備(ミラーや信号設置) 歩道分離、押しボタン式横断歩道設置		ごみ収集場所の掃除当番制度の見直し コロナ禍での地域コミュニティ力衰退の危機感 近隣トラブルの事例、対応方法 地域の関連性が薄くなっていること 町内会館の利用がしづらい(有料のため)		引きこもりの方やご両親に対する支援 高齢者の移動手段 障害者に対する支援や対策 窓越しでも会話ができる手話指導 独り暮らしの高齢者への手助け	
道德教育	2	防犯活動	1	区政について	1
子どもたちへの道德教育、親子のマナー教育 子育て中の親のマナー教育		グループでの夜回り等		区政の縮小、無駄減らし	
計					20件

【地域で取り組むべき、安全・安心に関わる地域活動： 属性別】上位4項目

<性別>

・「防災・減災や災害時への備え」「防犯」では「男性」の方が、「高齢者や障害者などへの手助けや見守り、介護をしている人への支援」「住民同士の交流や助け合いの促進」では「女性」の方が割合は高い。

<年齢別>

・「50～59歳」では「防災・減災や災害時への備え」「防犯」が、「60～69歳」では「高齢者や障害者などへの手助けや見守り、介護をしている人への支援」の割合が、全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

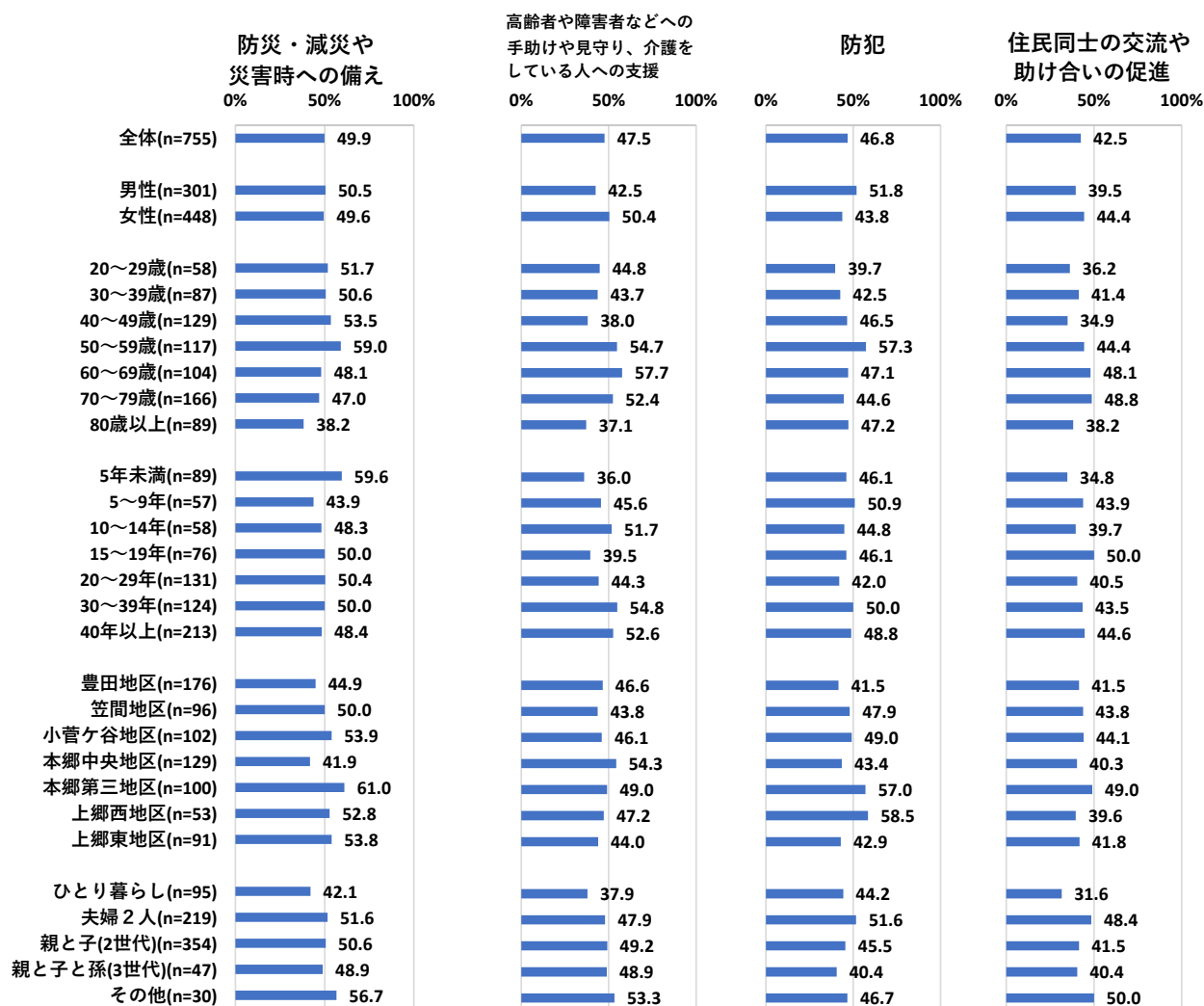
・「5年未満」では「防災・減災や災害時への備え」、「30～39年」「40年以上」では「高齢者や障害者などへの手助けや見守り、介護をしている人への支援」、「15～19年」では「住民同士の交流や助け合いの促進」の割合が、全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「本郷第三地区」では「防災・減災や災害時への備え」と「防犯」、「上郷西地区」では「防犯」の割合が、全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「夫婦2人」では「住民同士の交流や助け合いの促進」の割合が、全体より5ポイント以上高い。



(9) 救急相談電話、#7119(横浜市救急相談センター)の認知度

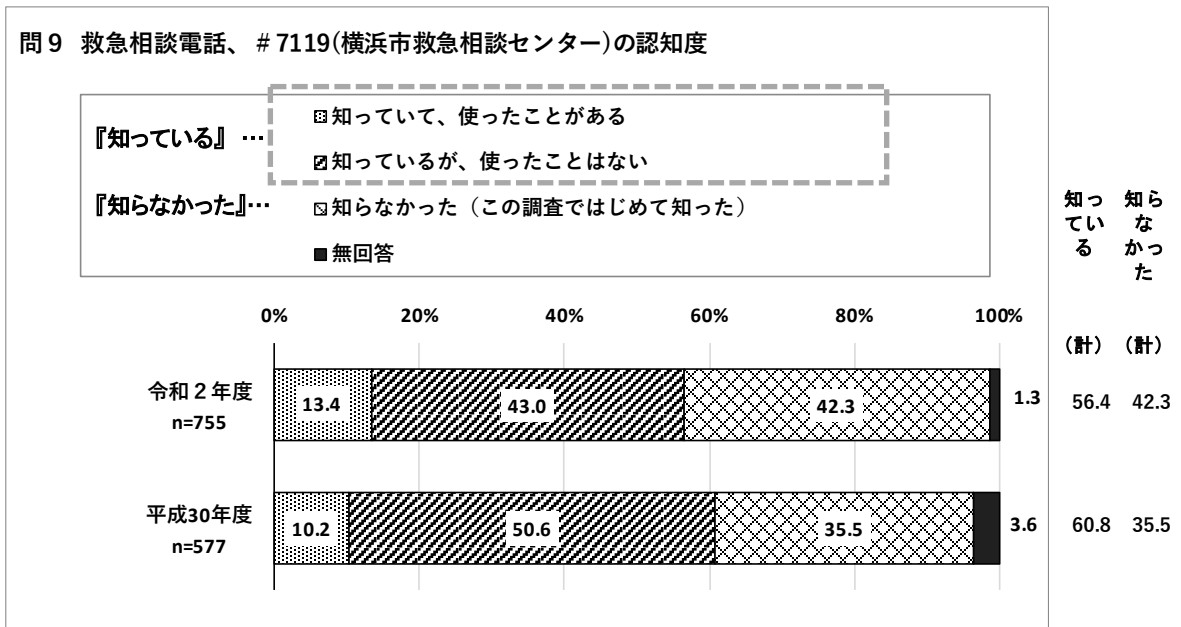
【救急相談電話、#7119(横浜市救急相談センター)の認知度： 時系列】

<全体>

- ・ 「知っている、使ったことがある」「知っているが、使ったことはない」を合わせた『知っている』割合は56.4%である。また、「使ったことがある」方は13.4%である。一方、「知らなかった（この調査ではじめて知った）」方は42.3%となっている。

<平成30年度調査と比較>

- ・ 平成30年度調査と比較して、「知っている、使ったことがある」「知っているが、使ったことはない」を合わせた『知っている』割合は4.4ポイント減少している。



【救急相談電話、#7119(横浜市救急相談センター)の認知度： 属性別】

<性別>

・『知っている』の割合は、「男性」より「女性」の方が5.6ポイント高い。

<年齢別>

・「30～39歳」では、『知っている』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

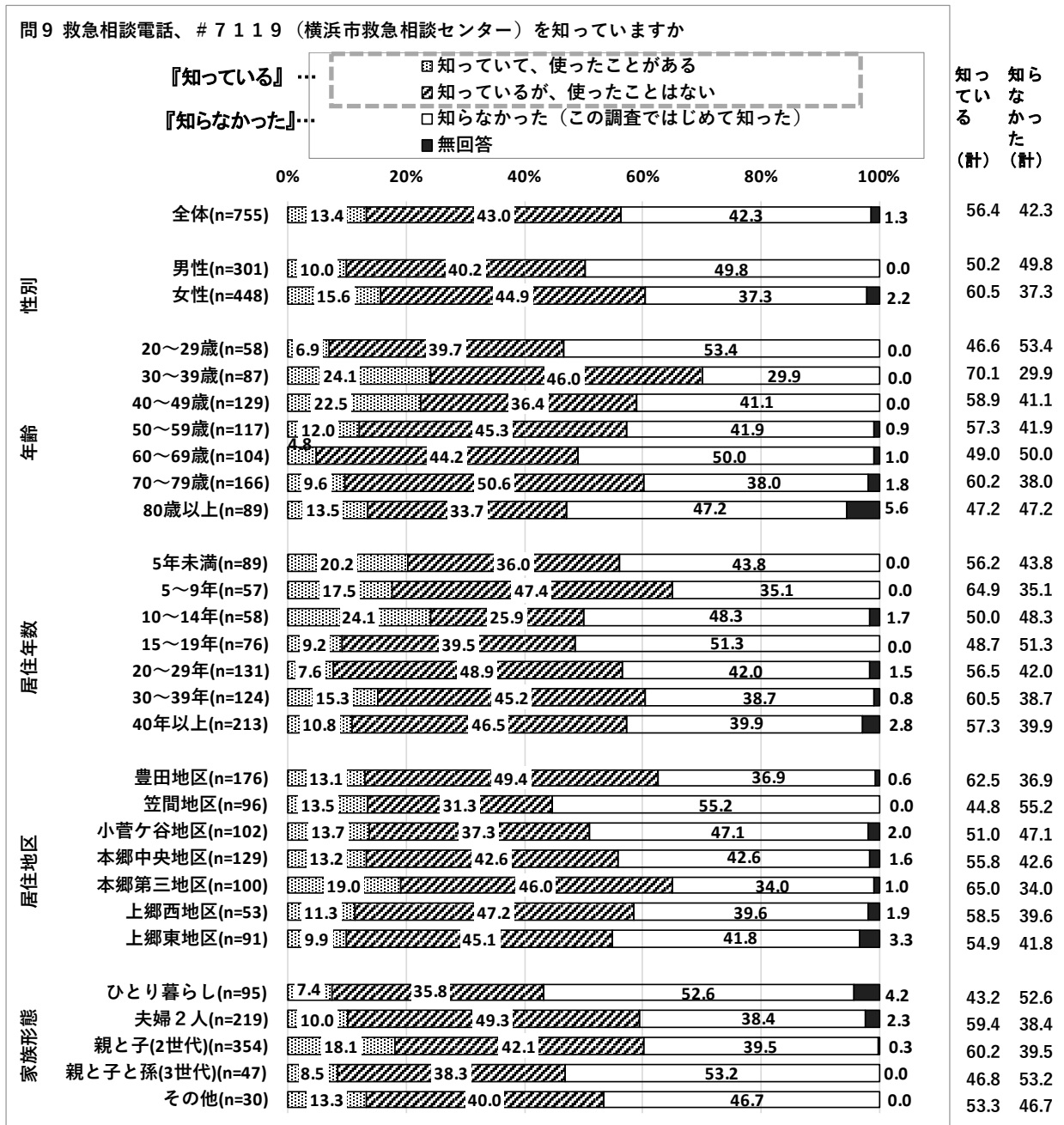
・「5～9年」では、『知っている』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「豊田地区」「本郷第三地区」では、『知っている』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「ひとり暮らし」では、『知っている』の割合が全体より10ポイント以上低い。

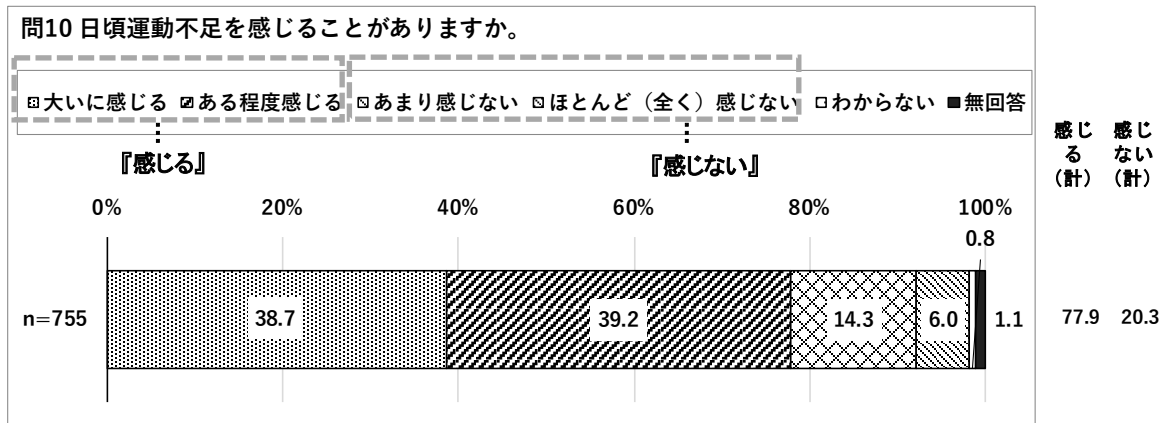


(10) 運動不足の実感

【運動不足の実感： 時系列】

<全 体>

- ・ 日頃運動不足を感じるかどうかについて「大いに感じる」「ある程度感じる」を合わせた『感じる』方が77.9%、「あまり感じない」「ほとんど（全く）感じない」を合わせた『感じない』方が20.3%となっており、7割以上の区民が日頃運動不足だと感じている。



【運動不足の実感： 属性別】

<性別>

・「大いに感じる」の割合は、「男性」より「女性」の方が5.6ポイント高い。

<年齢別>

・「30～39歳」では「大いに感じる」の割合が全体より15ポイント以上高い。

<居住年数別>

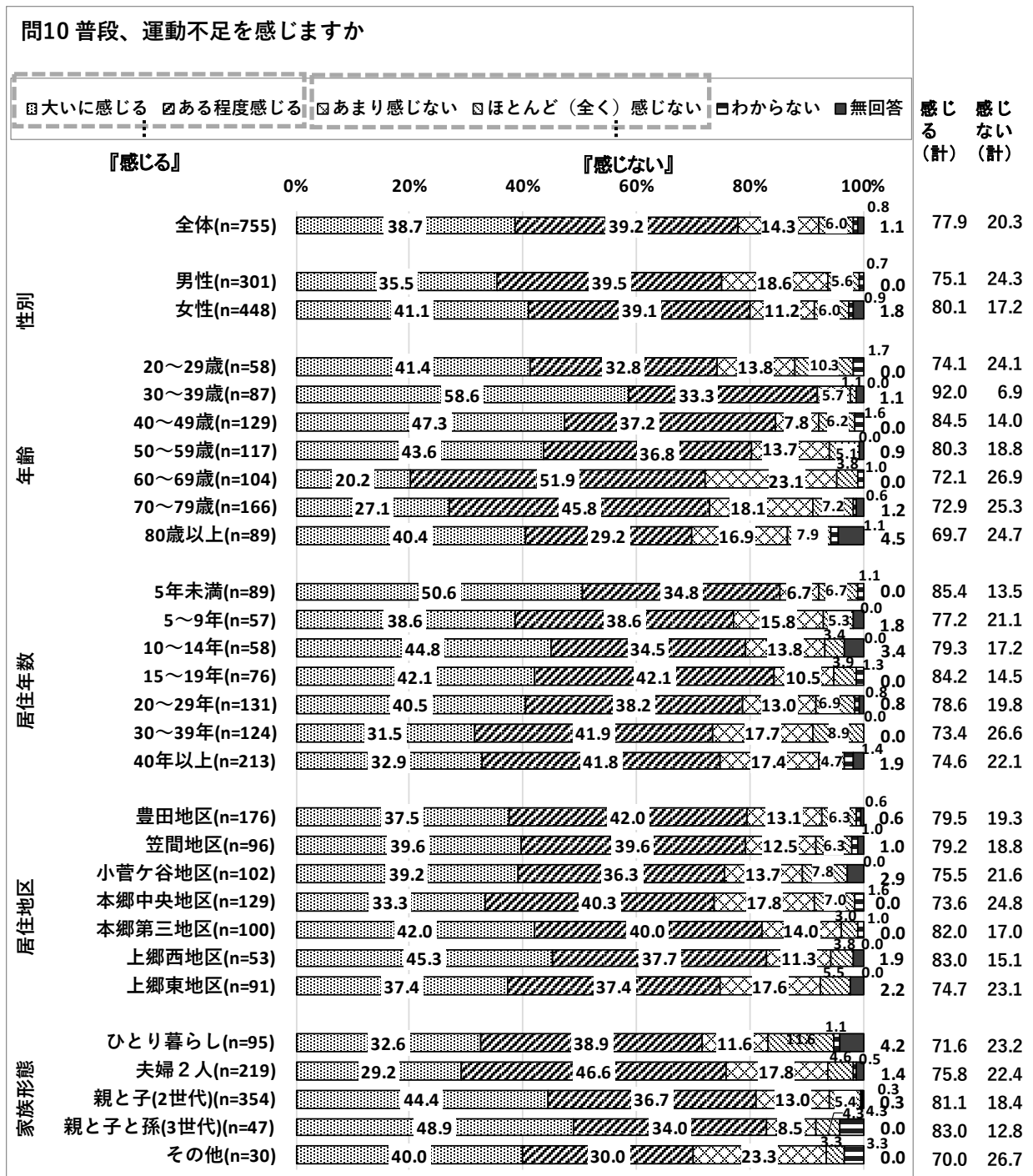
・「5年未満」では、「大いに感じる」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「大いに感じる」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

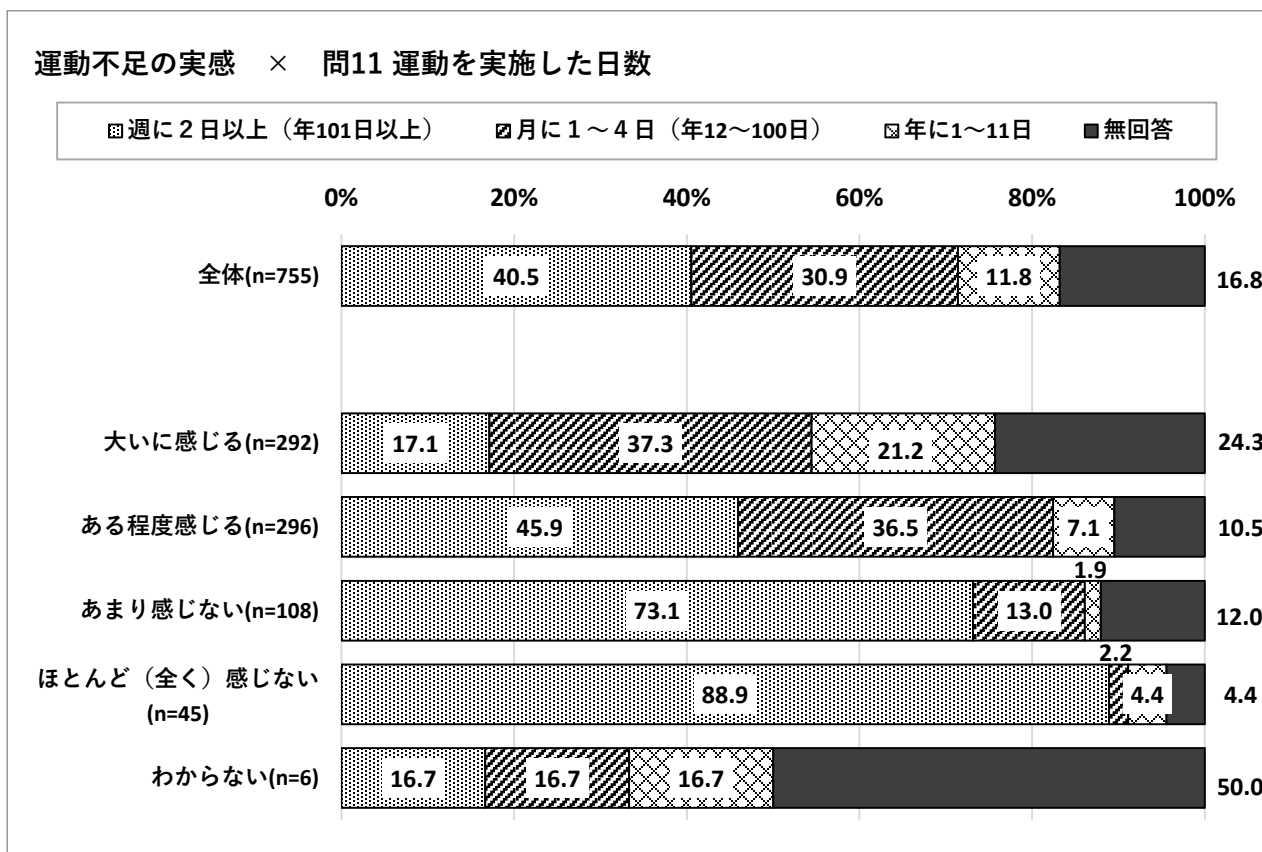
・「親と子と孫（3世代）」では、「大いに感じる」の割合が全体より10ポイント以上高い。



Ⅲ 集計分析結果 (10)運動不足の実感

【運動不足の実感： (11)スポーツをする頻度との相関】

- ・運動不足を「ほとんど（全く）感じない」方の9割近く、「あまり感じない」方の8割近くは、「週に2日以上（年101日以上）」ウォーキング等の運動を実施している。

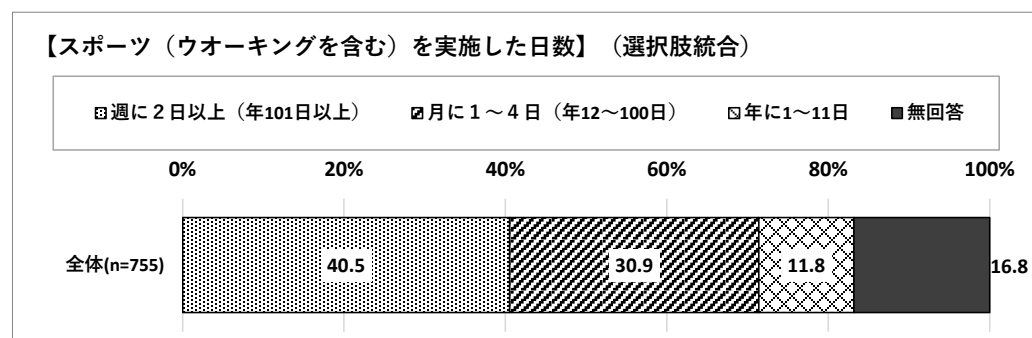
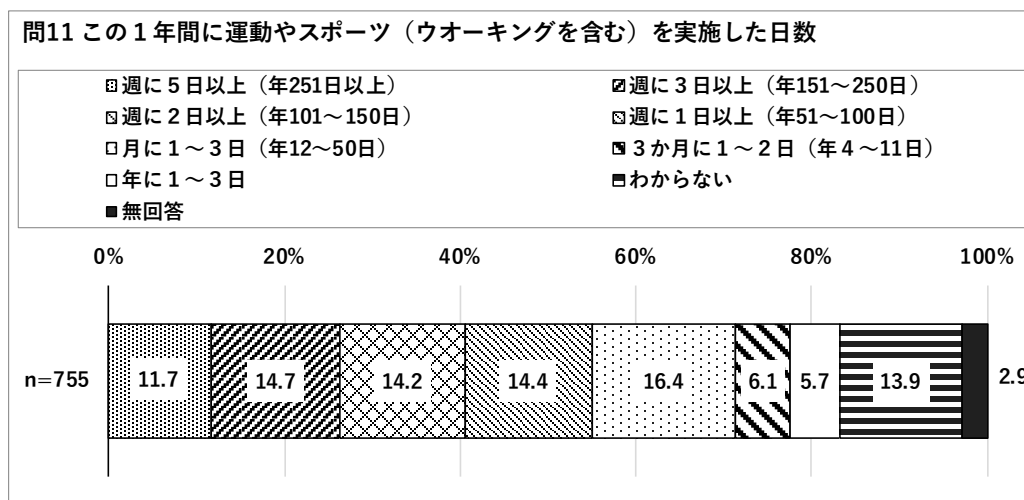


(11) スポーツをする頻度 【新規】

【スポーツ（ウォーキングを含む）をする頻度】 【新規】

<全 体>

- ・ スポーツをする頻度については「月に1～3日（年12～50日）」と回答した方が16.4%で最も多い。また、『週1日以上』スポーツをしている方は55.0%、『月1日以上』スポーツをしている方は71.4%となっている。全体的に各自それぞれにあった頻度でスポーツをしている傾向が見られる。



Ⅲ 集計分析結果 (11)スポーツをする頻度

【スポーツ（ウォーキングを含む）をする頻度： 属性別】

<性別>

・『月1日以上』では、「女性」より「男性」の方が2.1ポイント高い。

<年齢別>

・「60～69歳」では『月1日以上』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

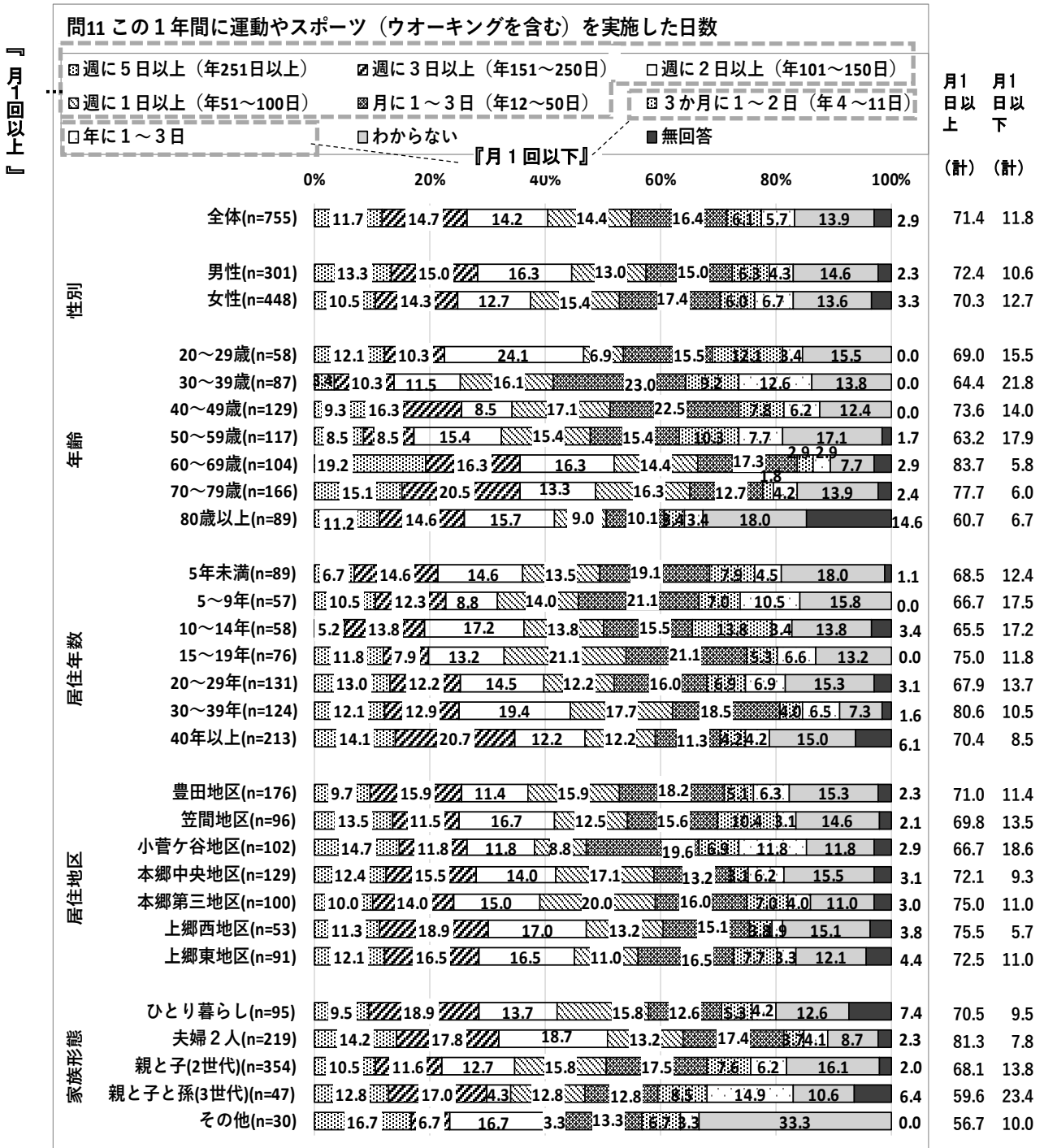
・「30～39年」では、『月1日以上』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・居住地区別には、大きな差は見られない。

<家族形態別>

・「夫婦2人」では『月1日以上』の割合が全体より5ポイント以上高く、「ひとり暮らし」を除いて、家族形態が広がるほどスポーツをする割合が低くなる傾向が見られる。



【スポーツ（ウォーキングを含む）をする頻度（選択肢統合）： 属性別】

<性別>

・「週に2日以上（年101日以上）」では、「男性」の方が高く、「月に1～4日（年12～100日）」「年に1～11日」では「女性」の方が高い。

<年齢別>

・「60～69歳」では「週に2日以上（年101日以上）」、「30～39歳」では「年に1～11日」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「15～19年」では、「月に1～4日（年12～100日）」の割合が全体より10ポイント以上高い。

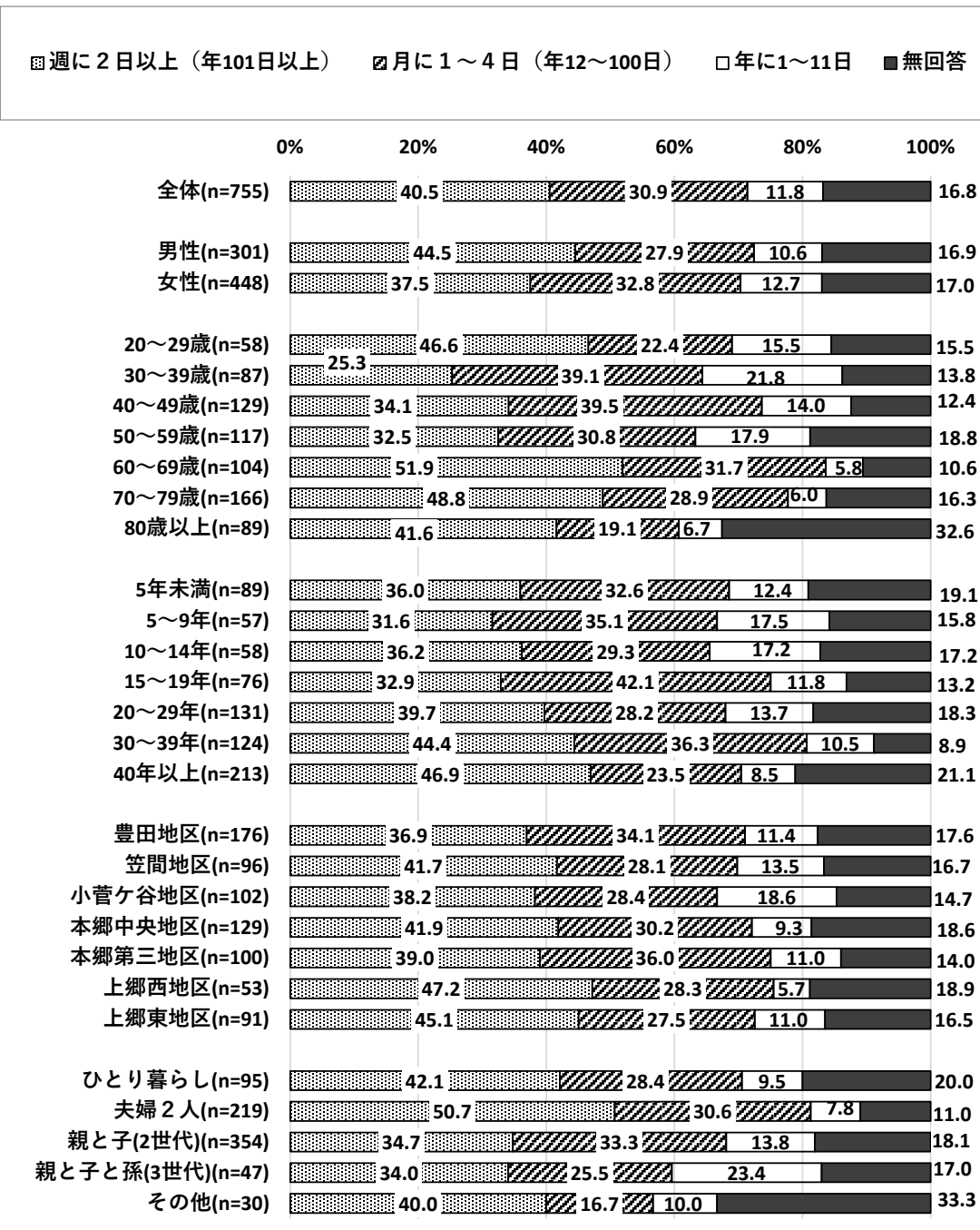
<居住地区別>

・居住地区別には、大きな差は見られない。

<家族形態別>

・「夫婦2人」では「週に2日以上（年101日以上）」、「親と子と孫（3世代）」では、「年に1～11日」の割合が全体より10ポイント以上高い。

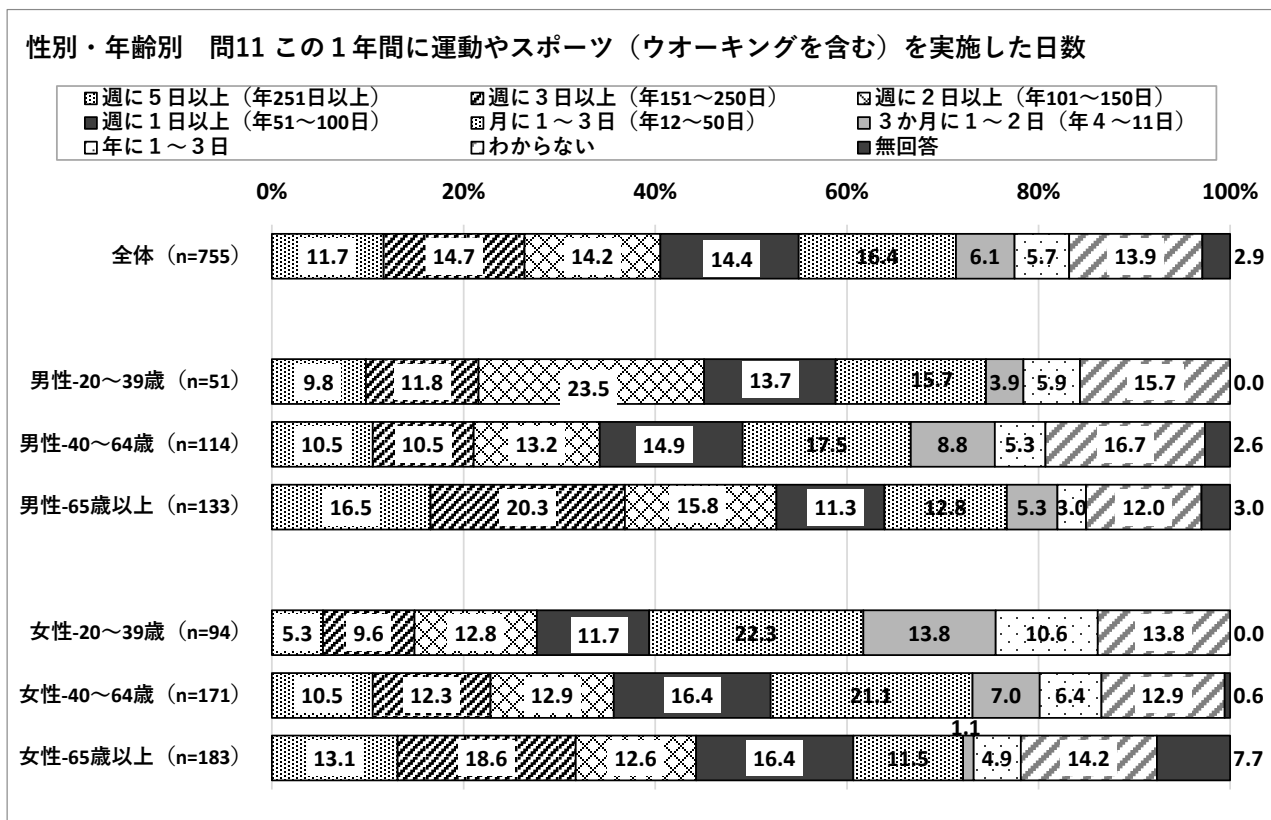
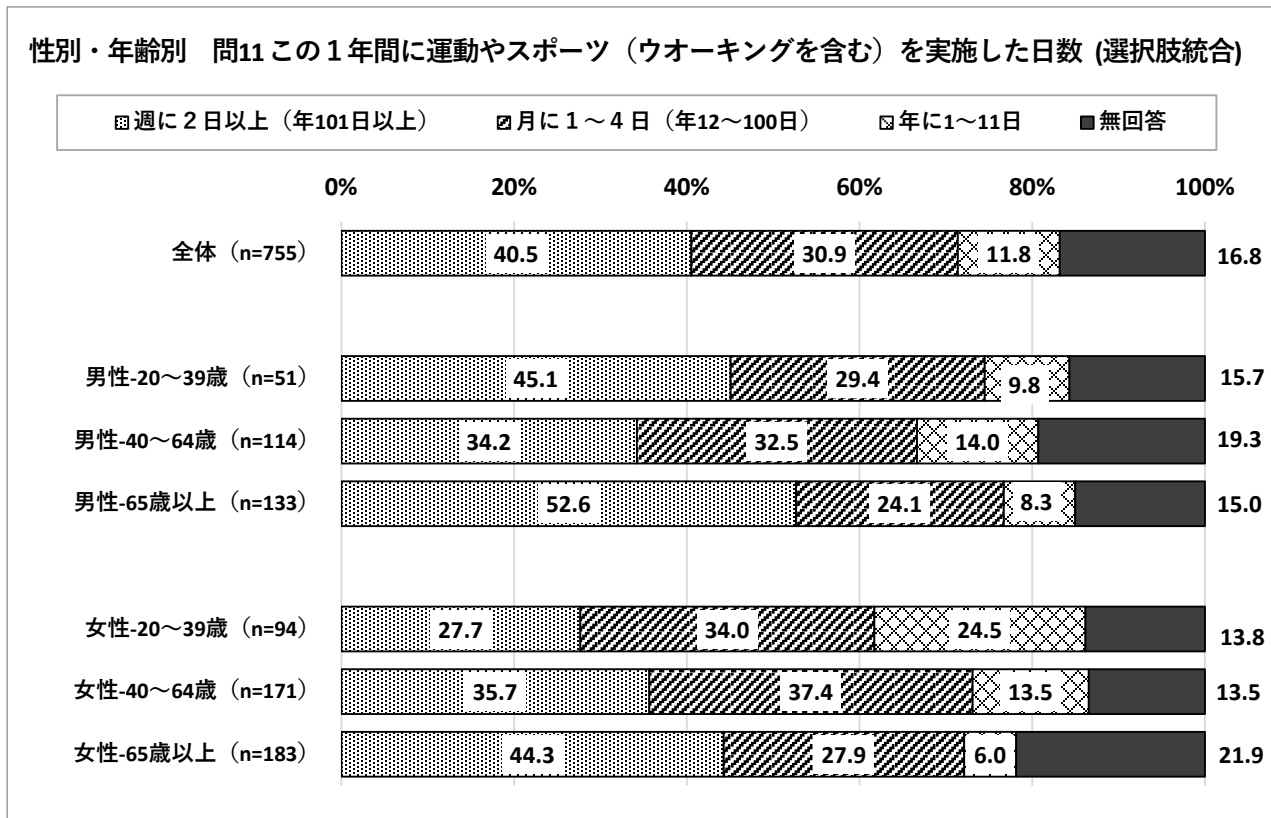
問11 この1年間に運動やスポーツ（ウォーキングを含む）を実施した日数（選択肢統合）



Ⅲ 集計分析結果 (11)スポーツをする頻度

【スポーツ（ウォーキングを含む）をする頻度：性別・年齢別】

- ・女性「20～39歳」では、「年に1～11日」が全体の割合より10ポイント以上高い。
- ・男性「65歳以上」では、「週に2日以上（年101日以上）」運動している方が全体の割合より10ポイント以上高い。



(12) ウオーキングをする頻度

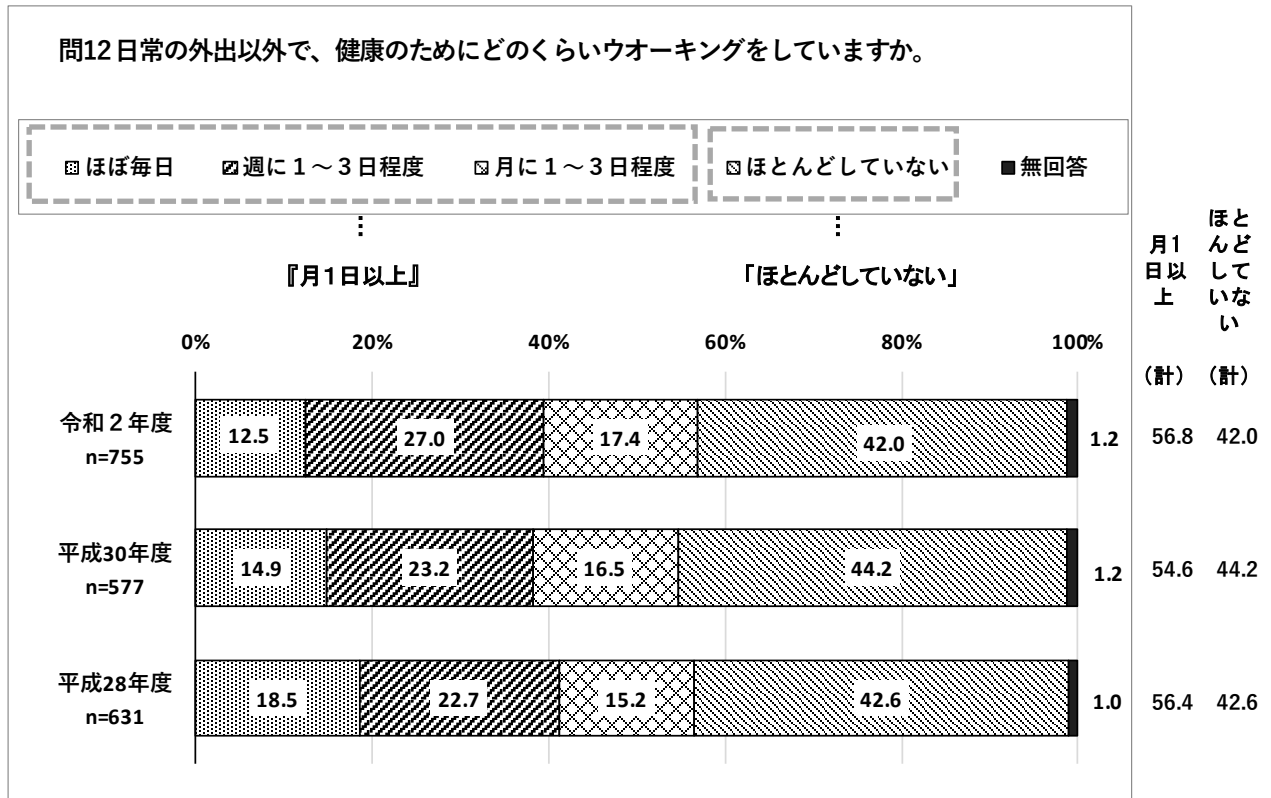
【ウオーキングをする頻度： 時系列】

<全体>

- ・ 日常の外出以外で、健康のためにどのくらいウオーキングをしているかについては、「ほぼ毎日」「週に1～3日程度」「月に1～3日程度」を合わせた『月に1日以上』の方は56.8%、「ほとんどしていない」方が42.0%と5割以上の区民が月1日以上ウオーキングをしている。

<平成28年度調査・平成30年度調査と比較>

- ・ 平成28年度調査・平成30年度調査と比較して、『月1日以上』の割合にほとんど差はみられないが、「ほぼ毎日」の割合については、減少の傾向が見られる。



Ⅲ 集計分析結果 (12)ウオーキングをする頻度

【ウオーキングをする頻度： 属性別】

<性別>

・『月1日以上』の割合は、「女性」より「男性」の方が8.7ポイント高い。

<年齢別>

・「60～69歳」「70～79歳」では、『月1日以上』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

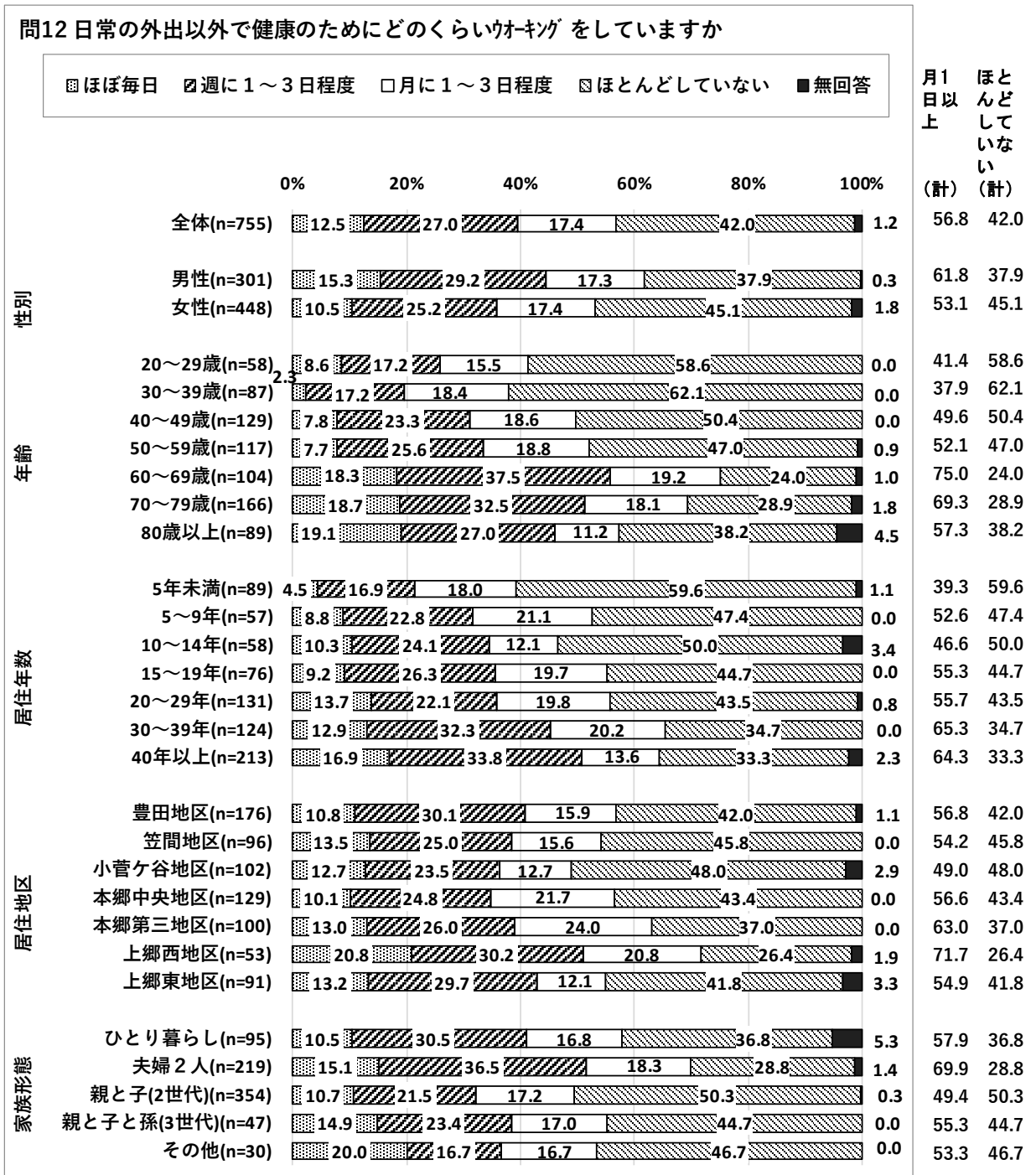
・「30～39年」「40年以上」では、『月1日以上』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、『月1日以上』の割合が全体より10ポイント以上高い。

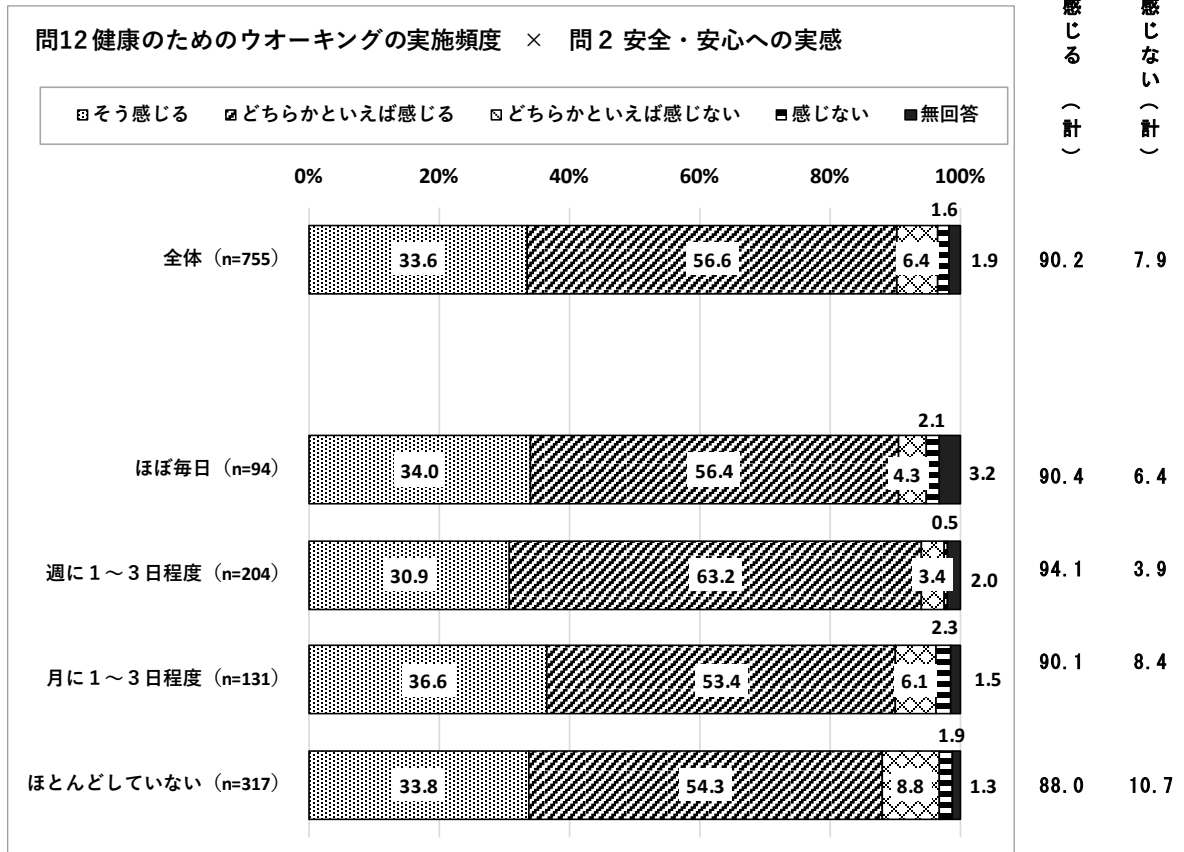
<家族形態別>

・「夫婦2人」では『月1日以上』の割合が全体より10ポイント程度高い。



【ウオーキングをする頻度：(2)安心・安全への実感との相関】

・ウオーキングの実施頻度と体感治安の相関について、「週に1～3日程度」のウオーキングをしている方は、「栄区は安全・安心なまちだと感じますか」という問いに対し、「そう感じる」「どちらかといえば感じる」と答えている割合が高く、ウオーキングを「ほとんどしていない」方は「どちらかといえば感じる」「そう感じる」と答える割合が高い。



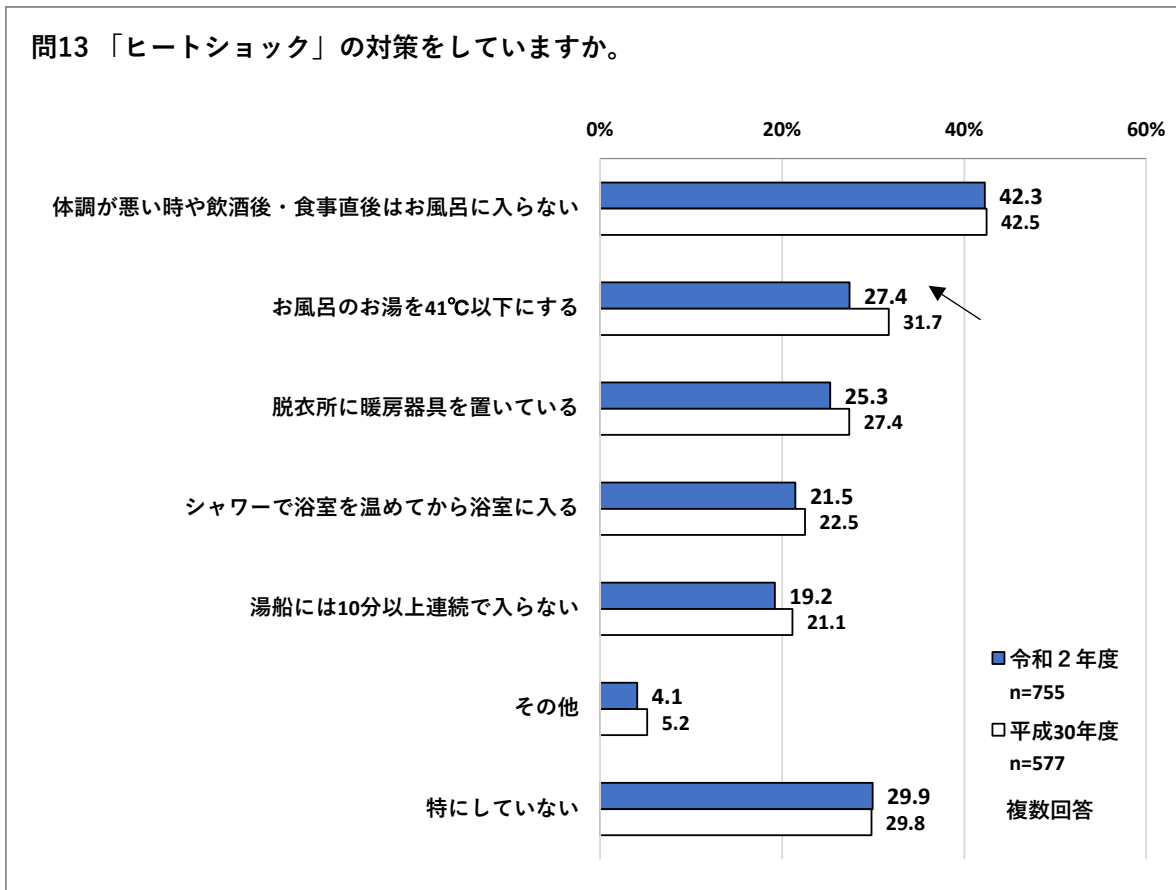
(13)「ヒートショック」の対策

<全 体>

- ・「体調が悪い時や飲酒後・食事直後はお風呂に入らない」が42.3%で最も多く、次いで「お風呂のお湯を41℃以下にする」(27.4%)、「脱衣所に暖房器具を置いている」(25.3%)の順である、一方、「特にしていない」は29.9%となっている。

<平成30年度調査と比較>

- ・平成30年度調査と比較すると全項目で減少傾向が見られるが、特に「お風呂のお湯を41℃以下にする」では、4.3ポイント減少している。



問13「ヒートショック」の対策をしていますか (その他記述)			
浴室暖房	17	湯かけをしてから入る	2
入る前に蓋を開けておく	4	銭湯	1
家全体の暖房	3	高齢者は1番風呂にいれない	1
シャワーのみ	2		
			計 30件

【「ヒートショック」の対策： 属性別】上位4項目

<性別>

・上位4項目では、全て「男性」より「女性」の方が行っている割合が高い。

<年齢別>

・どの項目も年齢が上がるほど割合が高くなる傾向が見られる。
 ・「20～29歳」「30～39歳」「40～49歳」では、「特にしていない」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

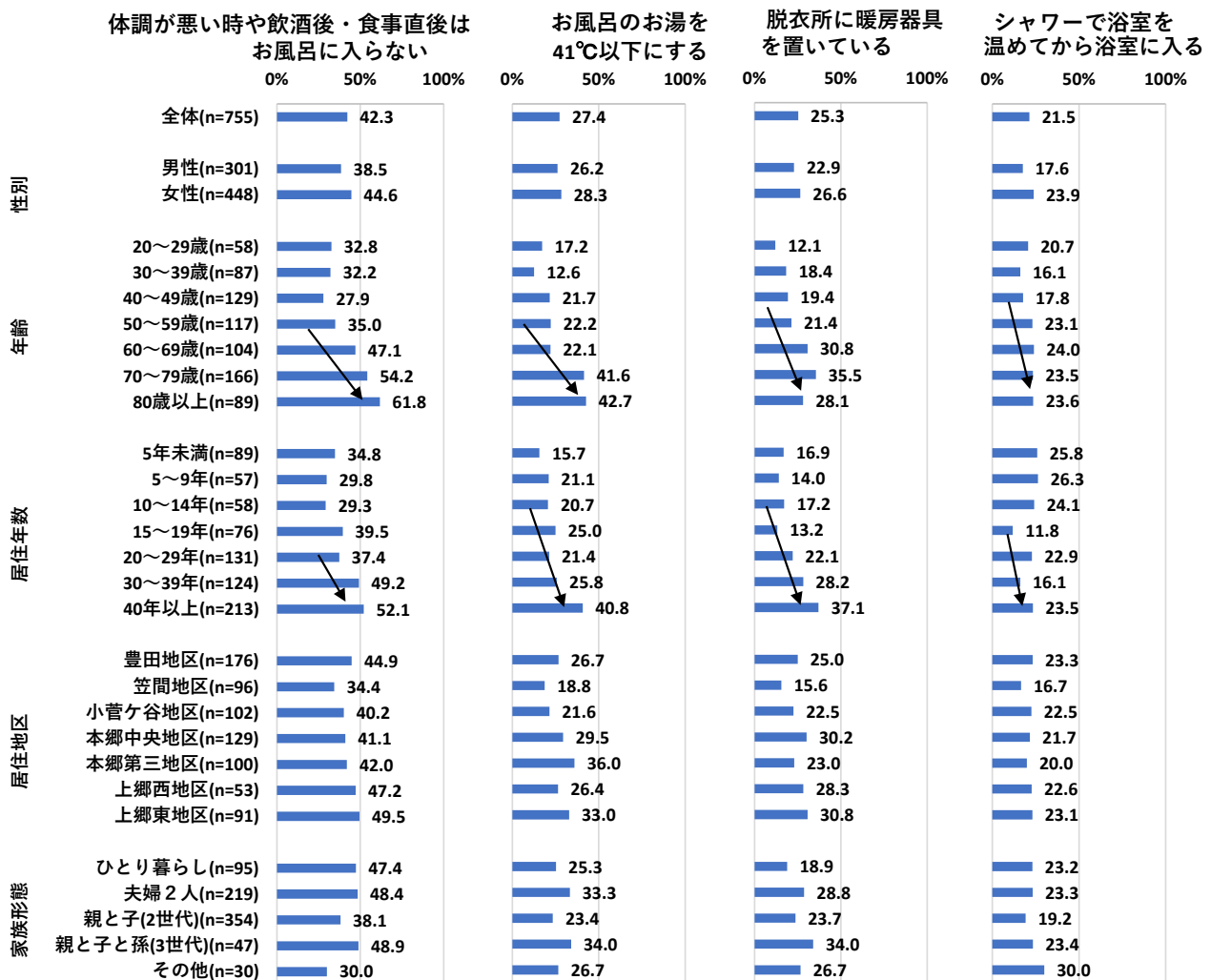
・どの項目も15年を過ぎると居住年数が長くなるほど割合が高くなる傾向が見られる。
 ・「5年未満」「5～9年」では、「特にしていない」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷東地区」では、「ヒートショック」の対策をしている割合が他地区と比べて高い傾向が見られる。

<家族形態別>

・家族形態別には、大きな差は見られない。

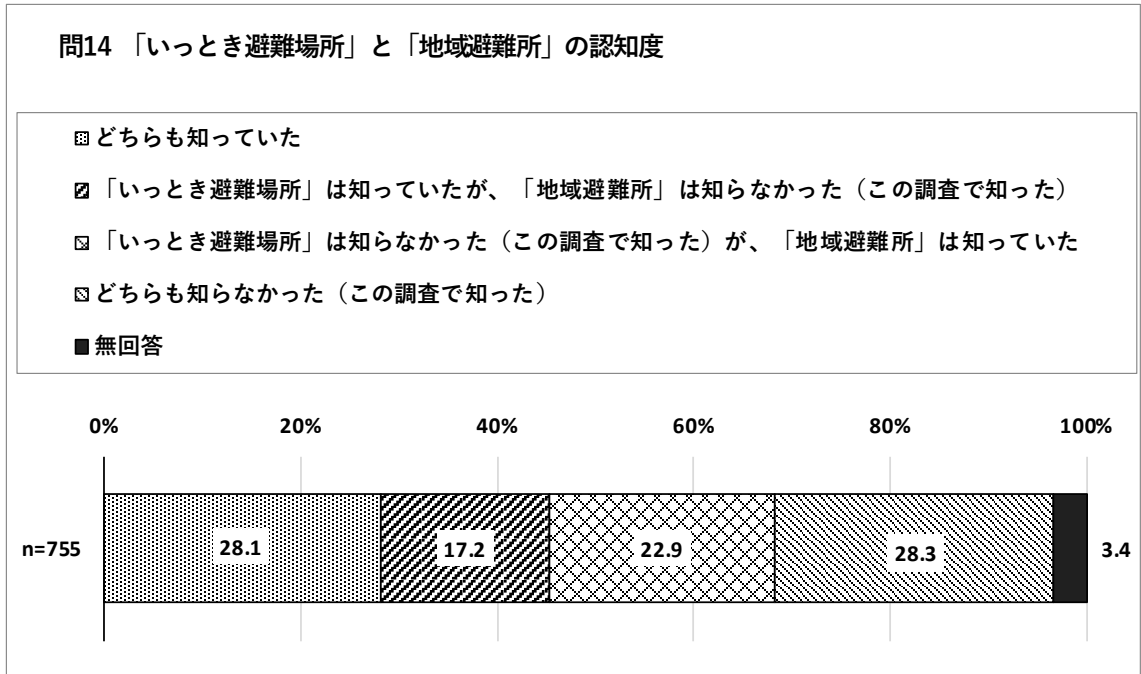


(14) いつとき避難場所と地域避難所の認知度 【新規】

【いつとき避難場所と地域避難所の認知度】

<全 体>

- ・ いつとき避難場所と地域避難所の認知度については、「どちらも知っていた」と「どちらも知らなかった（この調査で知った）」が 28.1%と 28.3%で拮抗している。また、「いつとき避難場所」のみ知っている方は 17.2%、「地域避難所」のみ知っている方は 22.9%と「地域避難所」の方が「いつとき避難場所」より 5.7 ポイント知っている方が多くなっている。



【いつとき避難場所と地域避難所の認知度： 属性別】

<性別>

・「どちらも知っていた」の割合は、「女性」より「男性」の方が3.1ポイント高い。

<年齢別>

・「80歳以上」では、「どちらも知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、年齢が上がるほど高くなる傾向が見られる。

<居住年数別>

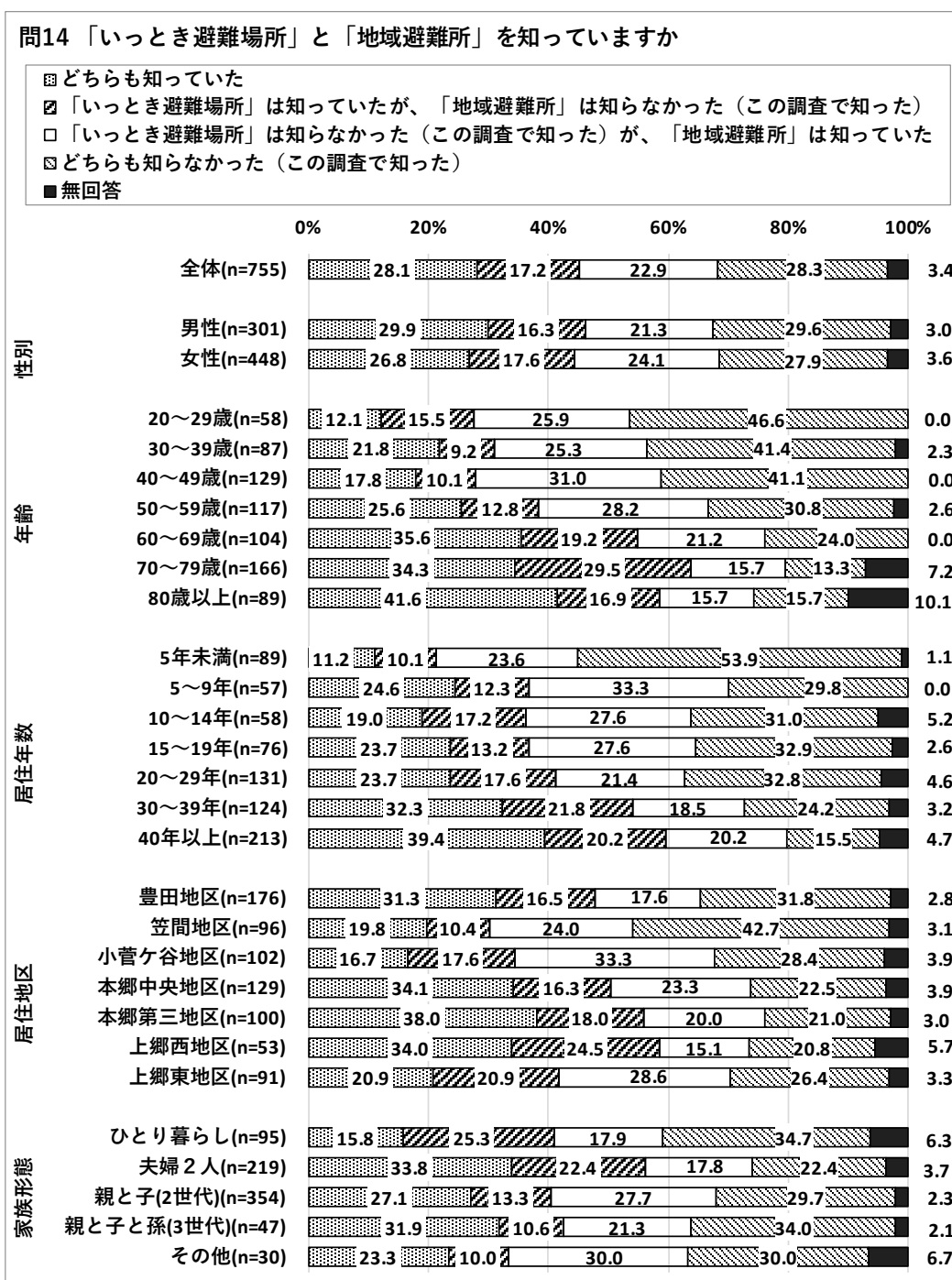
・「40年以上」では、「どちらも知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、居住年数が長くなるほど高くなる傾向が見られる。

<居住地区別>

・「本郷中央地区」「本郷第三地区」「上郷西地区」では、「どちらも知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「笠間地区」では「どちらも知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「夫婦2人」では、「どちらも知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。



(15) 地域防災拠点の認知度

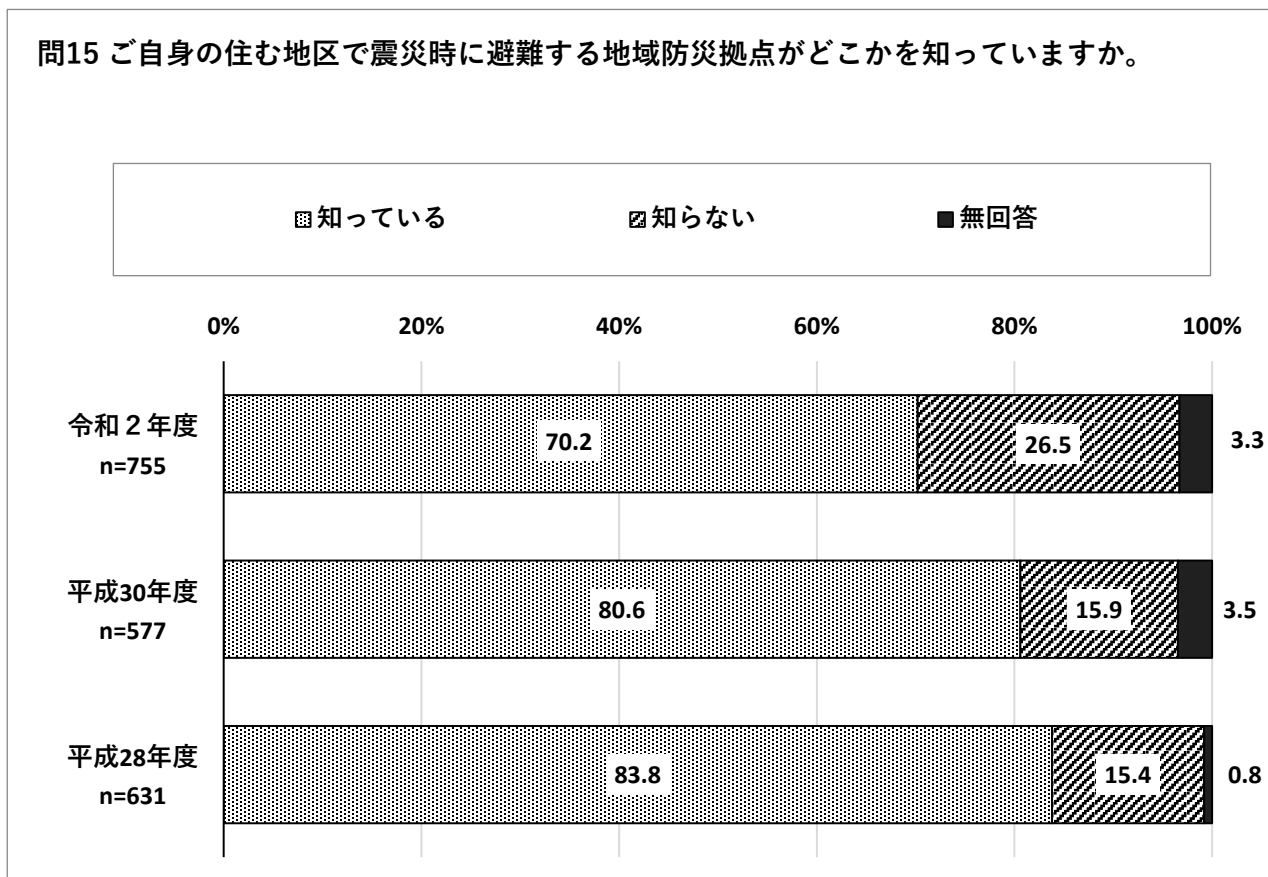
【地域防災拠点の認知度： 時系列】

<全 体>

- ・ 地区で震災時に避難する地域防災拠点を「知っている」方が70.2%と、「知らない」方を大きく上回っている。

<平成28年度調査・平成30年度調査と比較>

- ・ 平成28年度調査・平成30年度調査と比較して、「知っている」割合は減少傾向、「知らない」割合は増加傾向が見られる。



【地域防災拠点の認知度： 属性別】

<性別>

・「知っている」の割合は、「男性」より「女性」の方が5.2ポイント高い。

<年齢別>

・「20～29歳」「30～39歳」では「知らない」の割合が全体より10ポイント以上高く、80歳以上を除き年齢が上がるほど「知っている」の割合が高くなる傾向が見られる。

<居住年数別>

・「5年未満」では「知らない」の割合が全体より30ポイント以上高く、居住年数が長くなるほど「知っている」の割合が高くなる傾向が見られる。

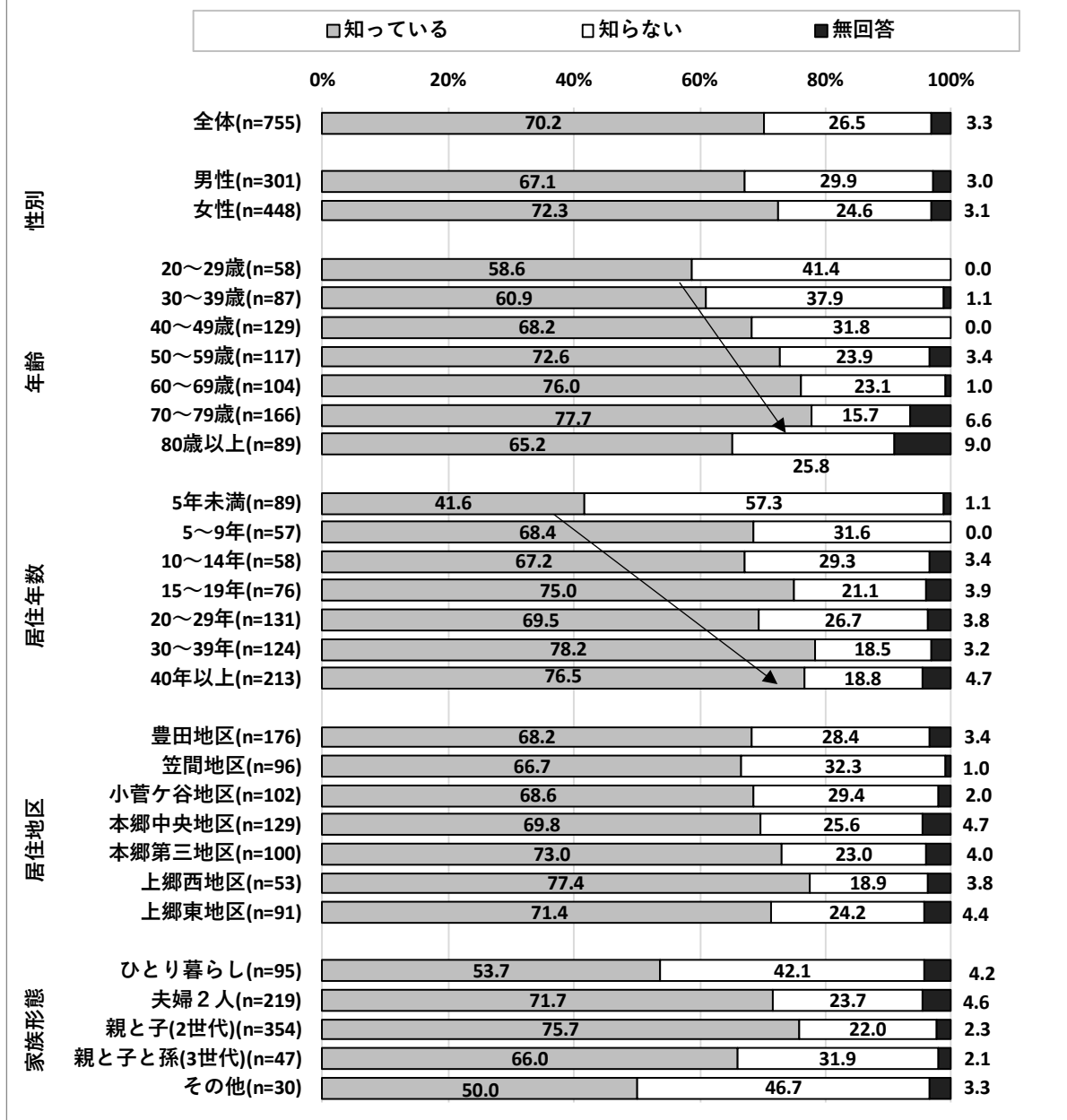
<居住地区別>

・「上郷西地区」では「知っている」が、「笠間地区」では「知らない」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子(2世代)」では「知っている」の割合が全体より5ポイント以上高く、「ひとり暮らし」では「知らない」の割合が全体より15ポイント以上高い。

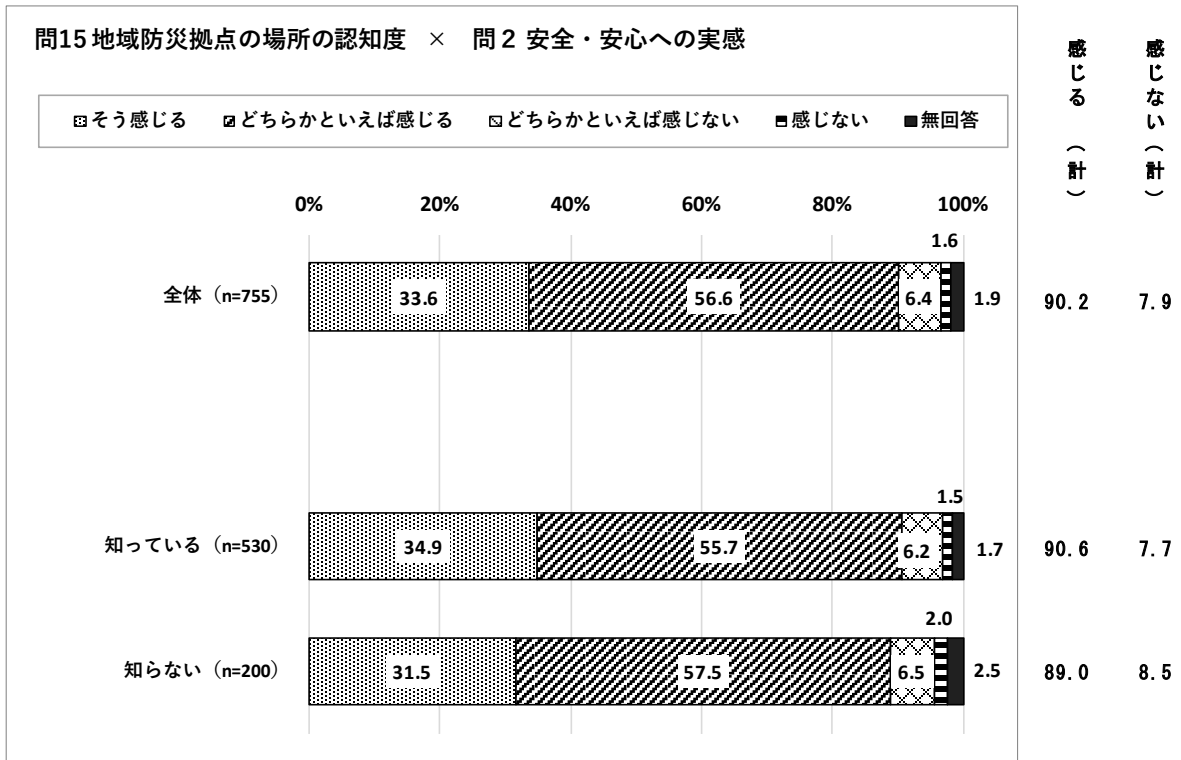
問15 ご自身の住む地区で震災時に避難する地域防災拠点がどこかを知っていますか。



Ⅲ 集計分析結果 (15)地域防災拠点の認知度

【地域防災拠点の認知度：(2)安全・安心への実感との相関】

・統計的に有意な差はみられない。



(16) 地域防災拠点の訓練に参加したことがある割合

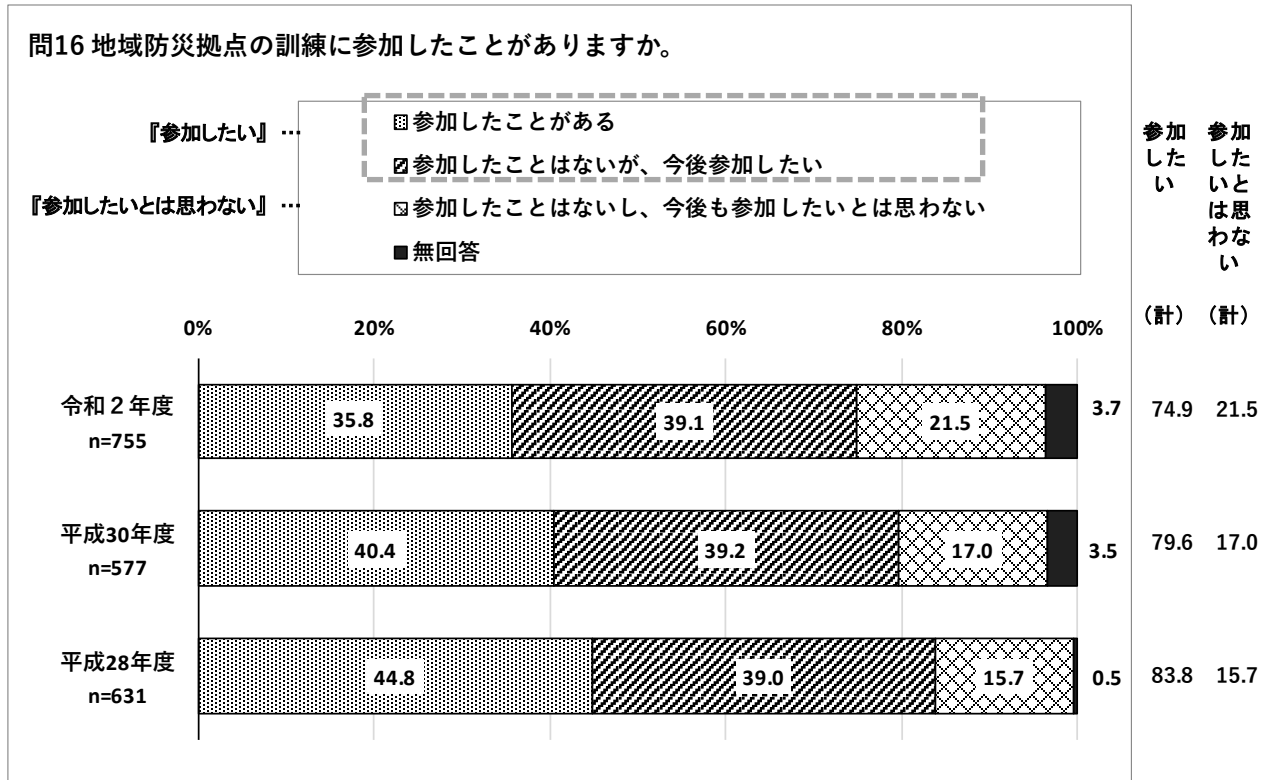
【地域防災拠点の訓練に参加したことがある割合： 時系列】

<全 体>

・「参加したことがある」「参加したことはないが、今後参加したい」を合わせた『参加したい』の割合は74.9%となっており、7割以上の区民が地域防災拠点の訓練に参加したことがある、もしくは参加する意図がある。

<平成28年度調査・平成30年度調査と比較>

・平成28年度調査・平成30年度調査と比較して、『参加したい』割合は減少傾向が見られる。



Ⅲ 集計分析結果 (16)地域防災拠点の訓練に参加したことがある割合

【地域防災拠点の訓練に参加したことがある割合： 属性別】

<性別>

・「参加したことがある」の割合は、「男性」より「女性」の方が10.8ポイント高い。

<年齢別>

・「80歳以上」を除いて、年齢が上がるほど「参加したことがある」の割合が高くなっている。

<居住年数別>

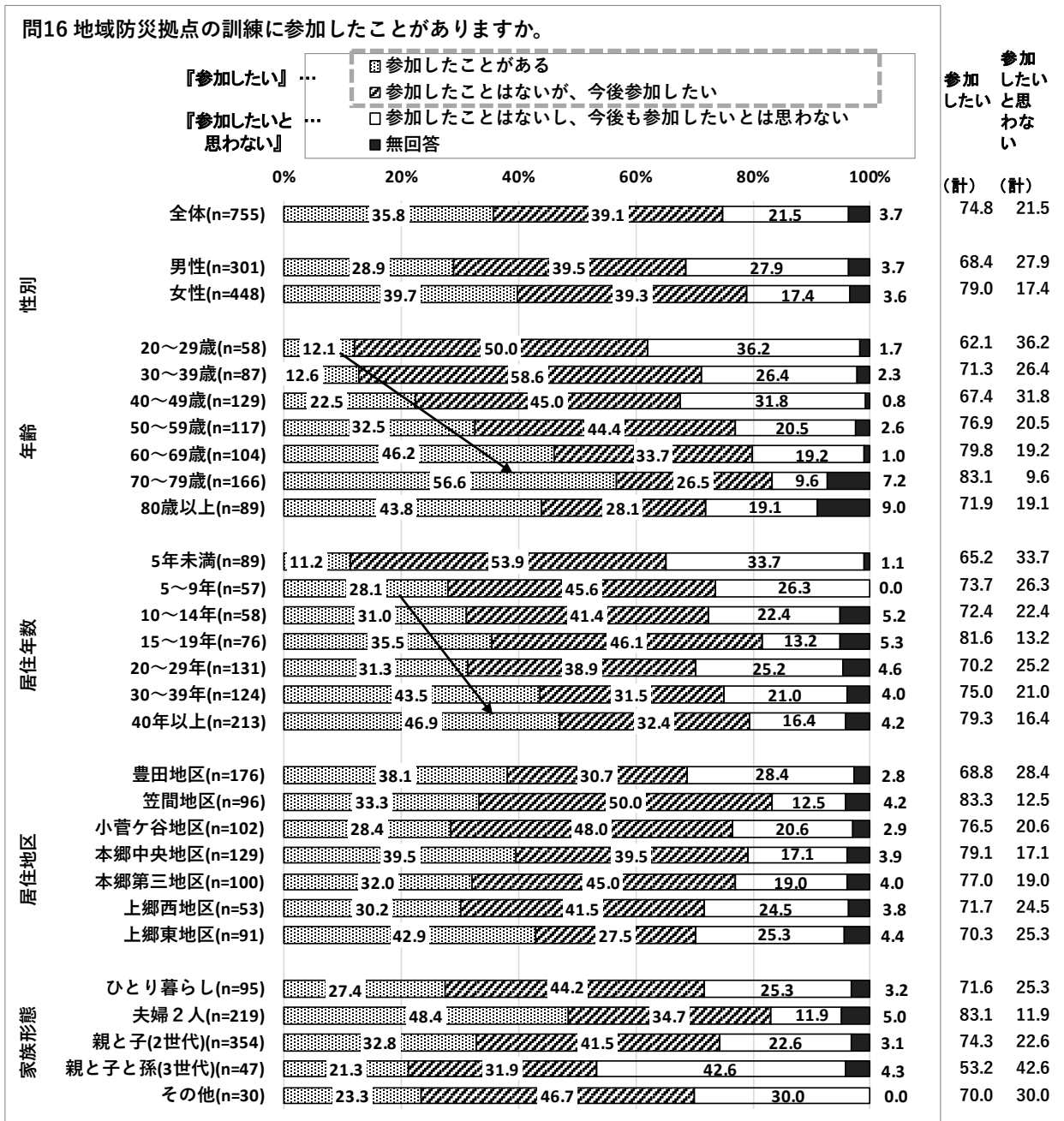
・居住年数が長くなるほど「参加したことがある」の割合が高くなる傾向が見られる。

<居住地区別>

・「上郷東地区」では、「参加したことがある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「夫婦2人」では、「参加したことがある」の割合が全体より10ポイント以上高い。



(17) 震災等の災害に対する備え

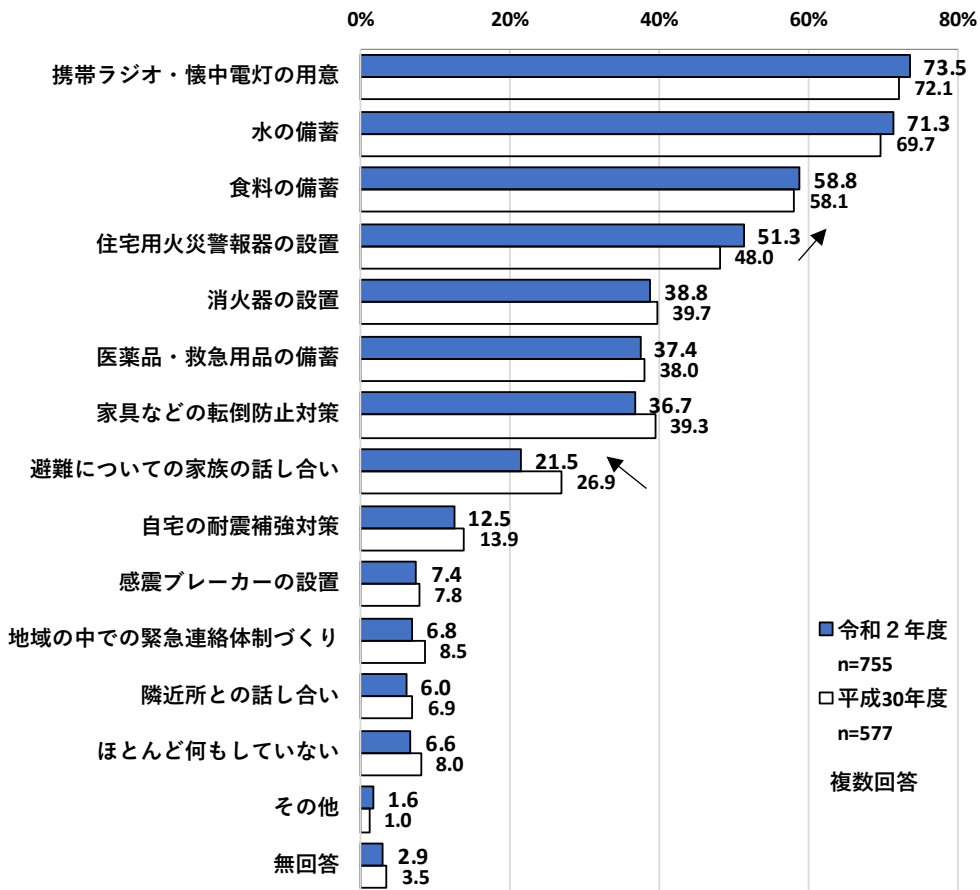
<全 体>

- ・ 区民が行っている震災等の災害に対する備えについては「携帯ラジオ・懐中電灯の用意」が73.5%で最も多く、次いで「水の備蓄」(71.3%)、「食料の備蓄」(58.8%)、「住宅用火災警報器の設置」(51.3%)の順になっている。一方、「ほとんど何もしていない」は6.6%となっている。

<平成30年度調査と比較>

- ・ 平成30年度調査と比較して、特に「住宅用火災警報器の設置」が3.3%増加、「避難についての家族の話し合い」が5.4%減少している。

問17 あなたの家では、震災等の災害に対する備えをしていますか。



問17 あなたの家では、震災等の災害に対する備えをしていますか (その他記述)			
防災バッグ	4	テント、ポータブルトイレ、3源冷蔵庫	1
日々意識している	2	耐震に強い家	1
携帯トイレ、バッテリー、発電機	1	地域の中での緊急連絡体制づくりに力点	1
電池の買い置きストック	1		
			計 11件

Ⅲ 集計分析結果 (17) 震災等の災害に対する備え

【震災等の災害に対する備え： 属性別】上位4項目と「ほとんど何もしていない」

<性別>

- ・上位4項目では、「携帯ラジオ・懐中電灯の用意」「住宅用火災警報器」では「男性」の方が、「水の備蓄」「食料の備蓄」では「女性」の割合が高い。

<年齢別>

- ・「80歳以上」では「携帯ラジオ・懐中電灯の用意」、「20～29歳」「30～39歳」では「食料の備蓄」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

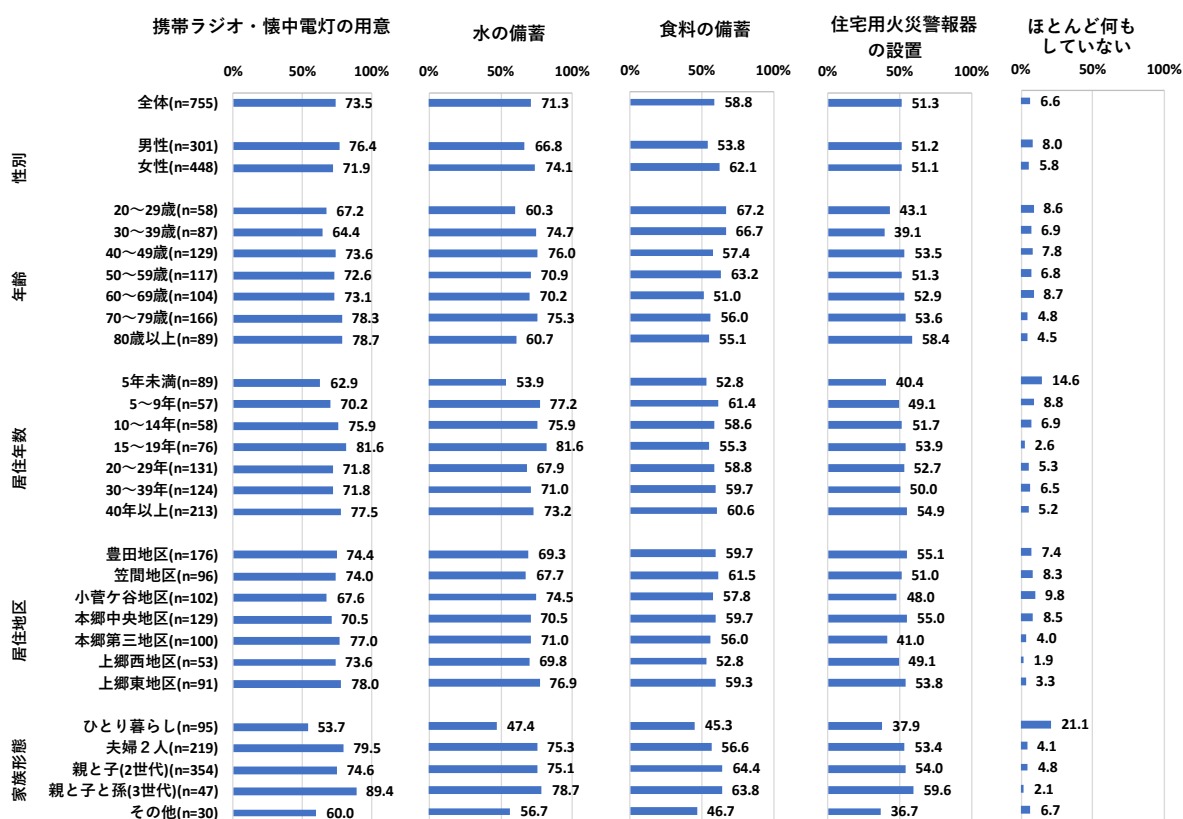
- ・「5年未満」では「水の備蓄」の割合が全体より15ポイント以上低く、「15～19年」では「携帯ラジオ・懐中電灯の用意」が5ポイント以上、「水の備蓄」が10ポイント以上全体より高い。

<居住地区別>

- ・「上郷東地区」では「水の備蓄」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

- ・「住宅用火災警報器の設置」は家族形態が広がるほど割合が高くなる傾向があり、「親と子と孫（3世代）」では、「携帯ラジオ・懐中電灯の用意」の割合が全体より15ポイント以上高い。
- ・「ひとり暮らし」では、「ほとんど何もしていない」割合が高い。



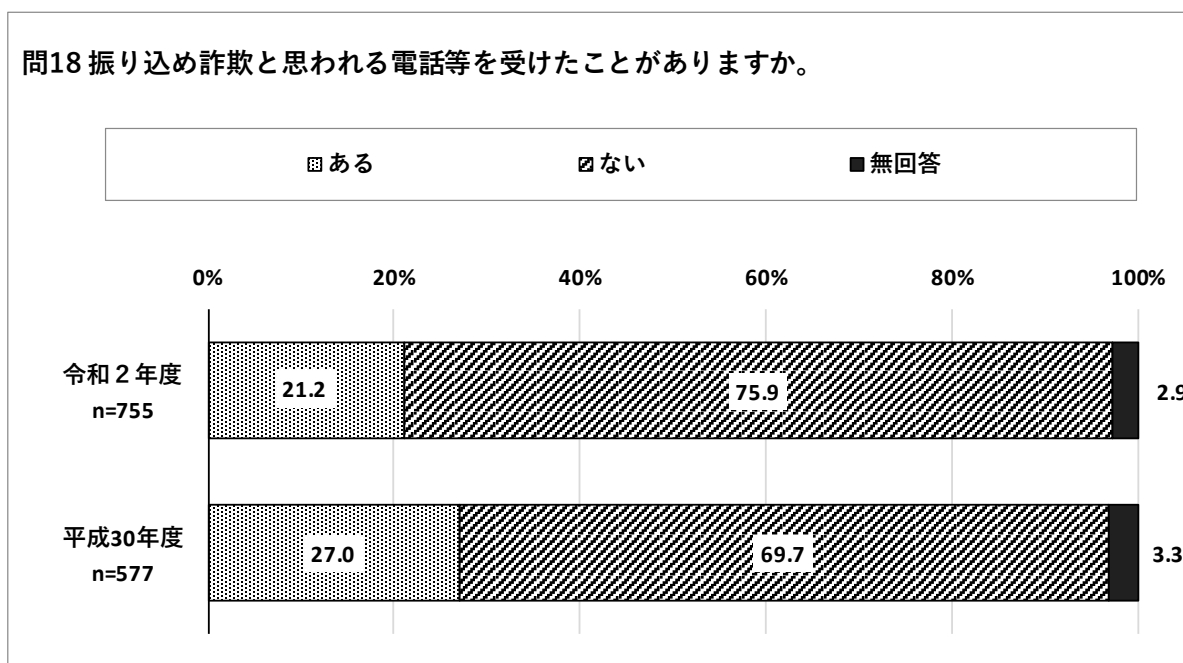
(18) 振り込め詐欺の受電経験の有無

<全 体>

- ・ 振り込め詐欺と思われる電話を受けたことがある区民は 21.2%になっている。

<平成 30 年度調査と比較>

- ・ 平成 30 年度調査と比較して、振り込め詐欺と思われる電話を受けたことがある方の割合は 5.8 ポイント減少している。



【振り込め詐欺の受電経験の有無： 属性別】

<性別>

・「ある」の割合は「男性」より「女性」の方が4.7ポイント高い。

<年齢別>

・「70～79歳」「80歳以上」では、「ある」の割合が全体より20ポイント以上高く、年齢が上がるほど「ある」の割合が高くなる傾向が見られる。

<居住年数別>

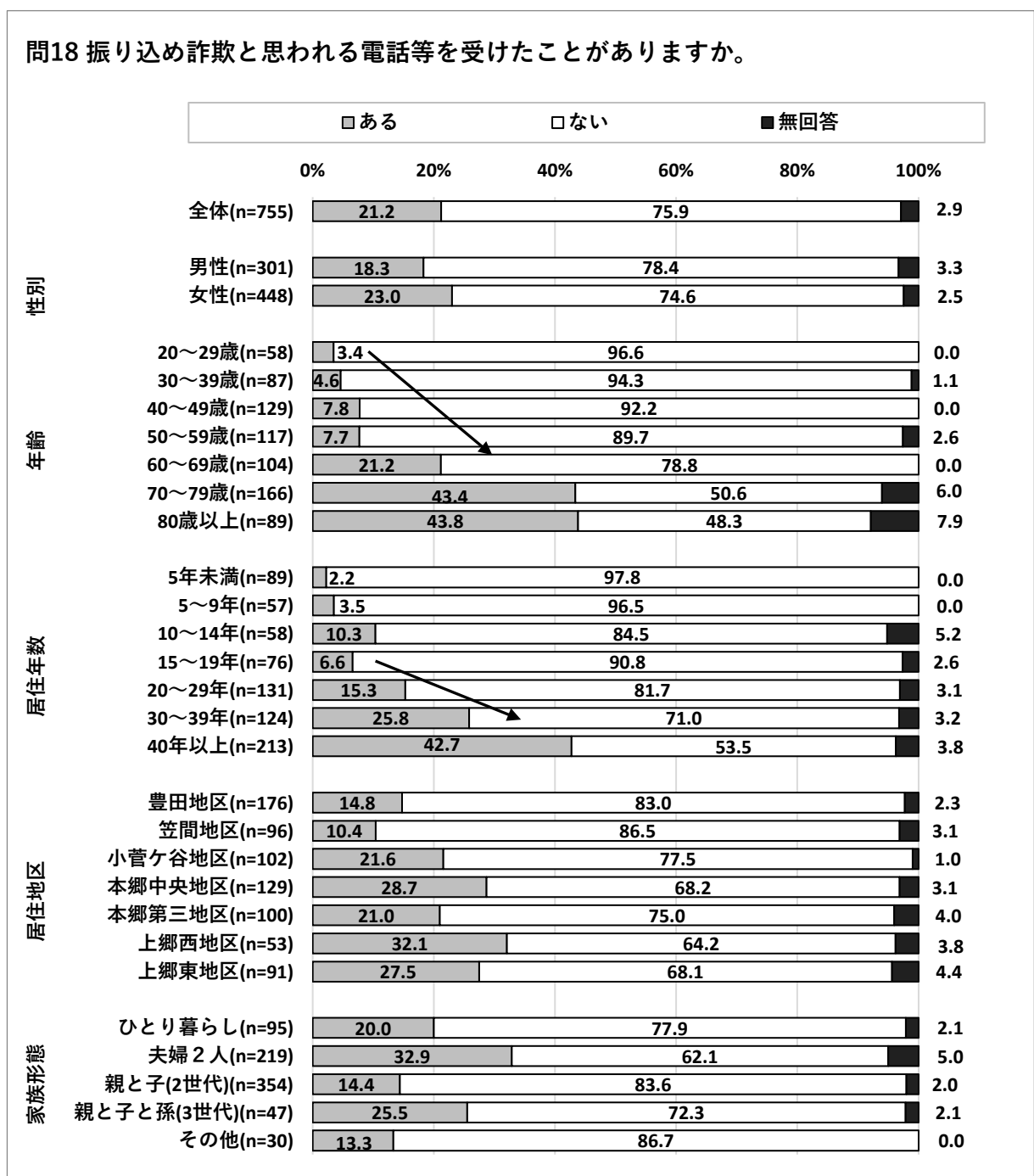
・居住年数が長くなるほど「ある」の割合が高くなる傾向が見られる。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「ある」の割合が全体より10ポイント以上高い。
 ・「本郷中央地区」「上郷東地区」では、「ある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

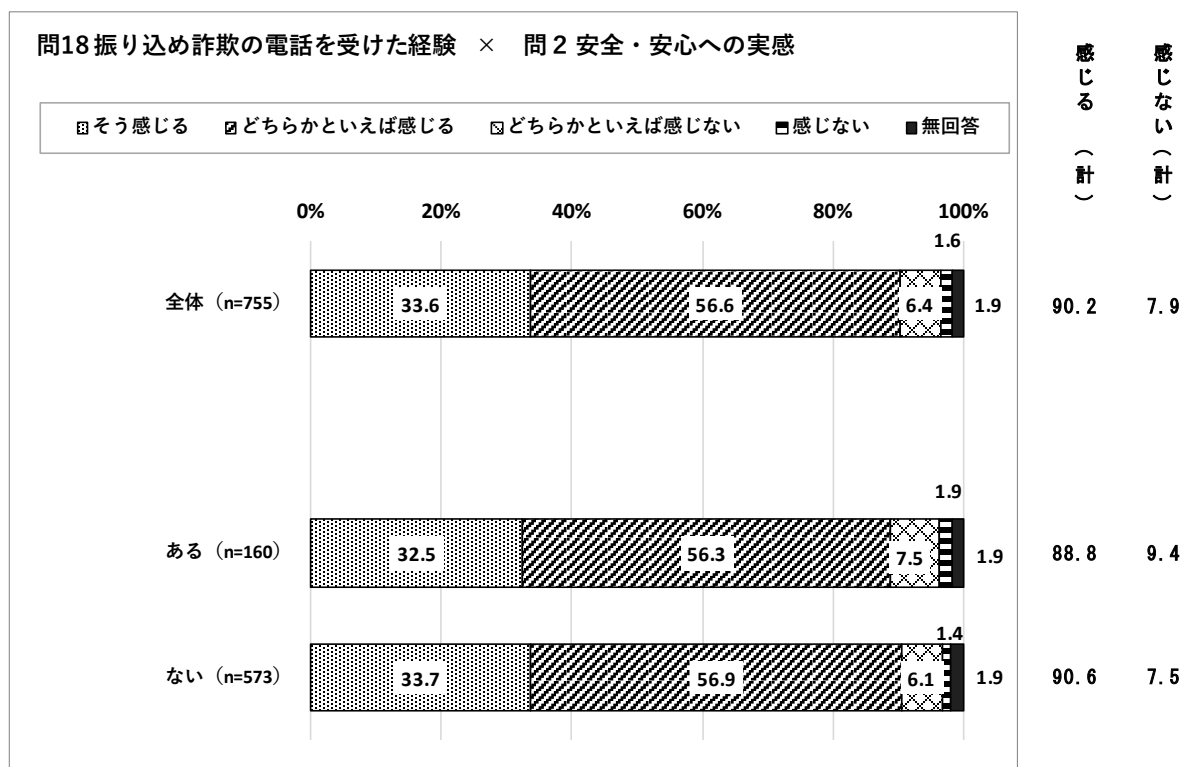
<家族形態別>

・「夫婦2人」では、「ある」の割合が全体より10ポイント以上高い。



【振り込め詐欺の受電経験の有無：(2)安全・安心への実感との相関】

・統計的に有意な差はみられない。



Ⅲ 集計分析結果 (19)知っている振り込め詐欺

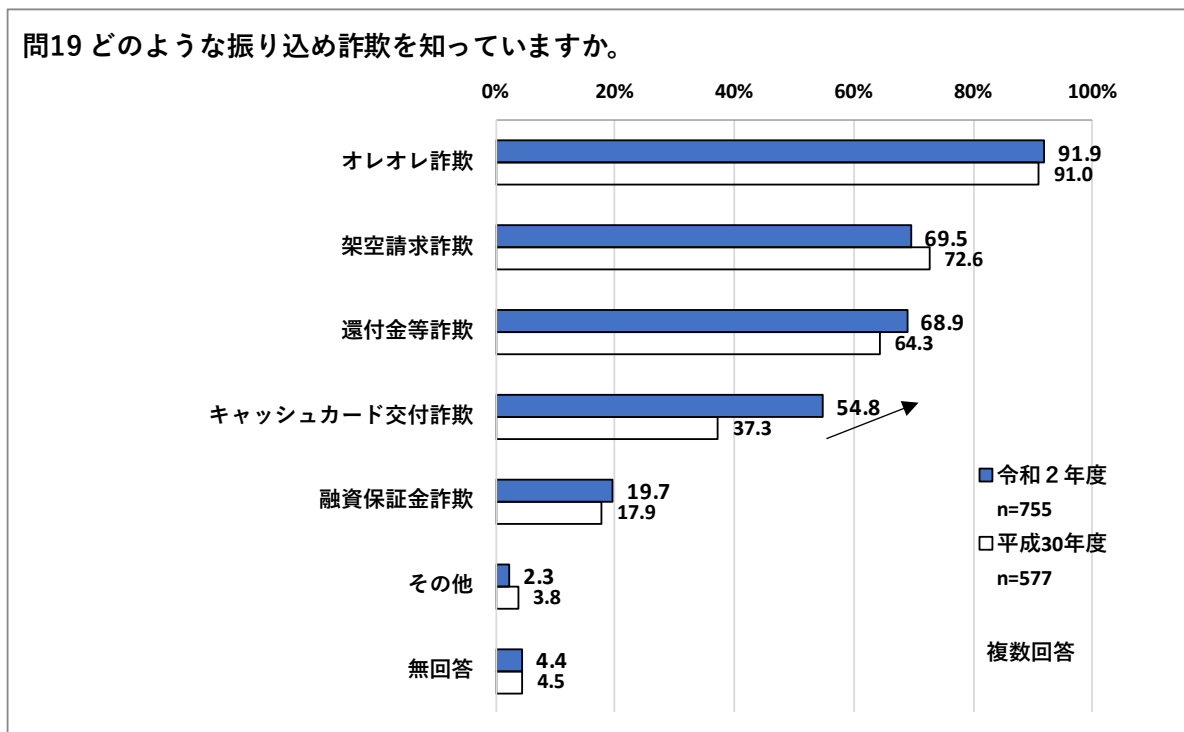
(19) 知っている振り込め詐欺

<全 体>

- ・ 知っている振り込め詐欺で最も多く挙げられたのは「オレオレ詐欺」が91.9%、次いで「架空請求詐欺」(69.5%)、「還付金等詐欺」(68.9%)の順となっている。

<平成30年度調査と比較>

- ・ 平成30年度調査と比較して、特に「キャッシュカード交付詐欺」が17.6ポイント増加している。



問19 どのような振り込め詐欺を知っていますか (その他記述)			
ガス点検	1	ワンクリック詐欺	1
キャッシュカード不正使用	1	未公開株購入勧誘詐欺	1
電話からの詐欺	1	警察官になりすまし詐欺	1
示談金の支払詐欺	1	不動産詐欺	1
母さん助けてサギ	1	その他	2
			計 11件

【知っている振り込め詐欺： 属性別】 上位4項目

<性別>

・「架空請求詐欺」では「男性」の方が高い。

<年齢別>

・いずれの項目でも「50～59歳」で認知度が最も高く、それをピークに年齢が上がるほど認知度は低くなる傾向が見られる。

<居住年数別>

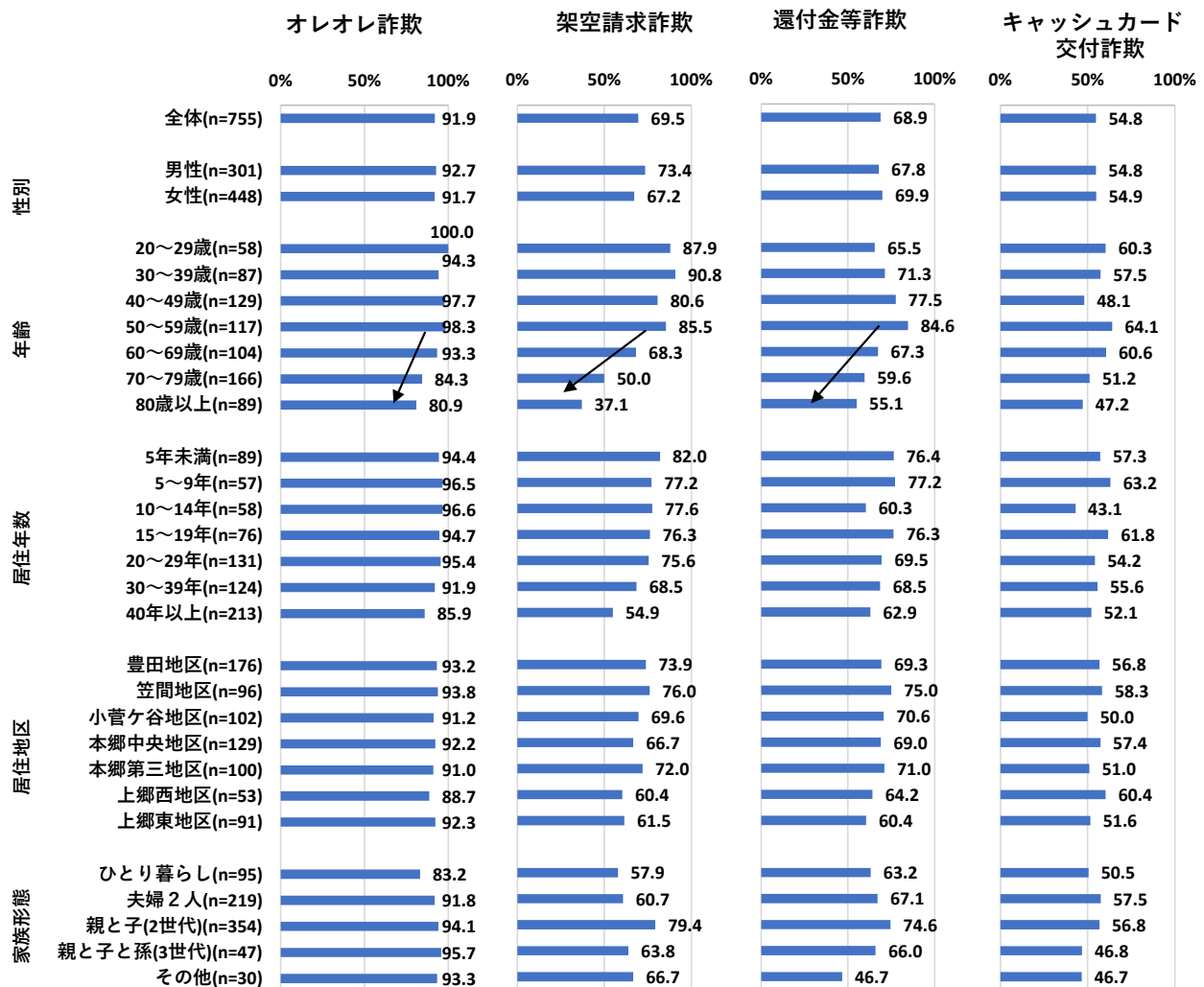
・「5年未満」では、「架空請求詐欺」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「笠間地区」では、「架空請求詐欺」「還付金等詐欺」の割合が、全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子(2世代)」では、「架空請求詐欺」「還付金等詐欺」の割合が、全体より5ポイント以上高い。



Ⅲ 集計分析結果 (20)行っている振り込め詐欺対策

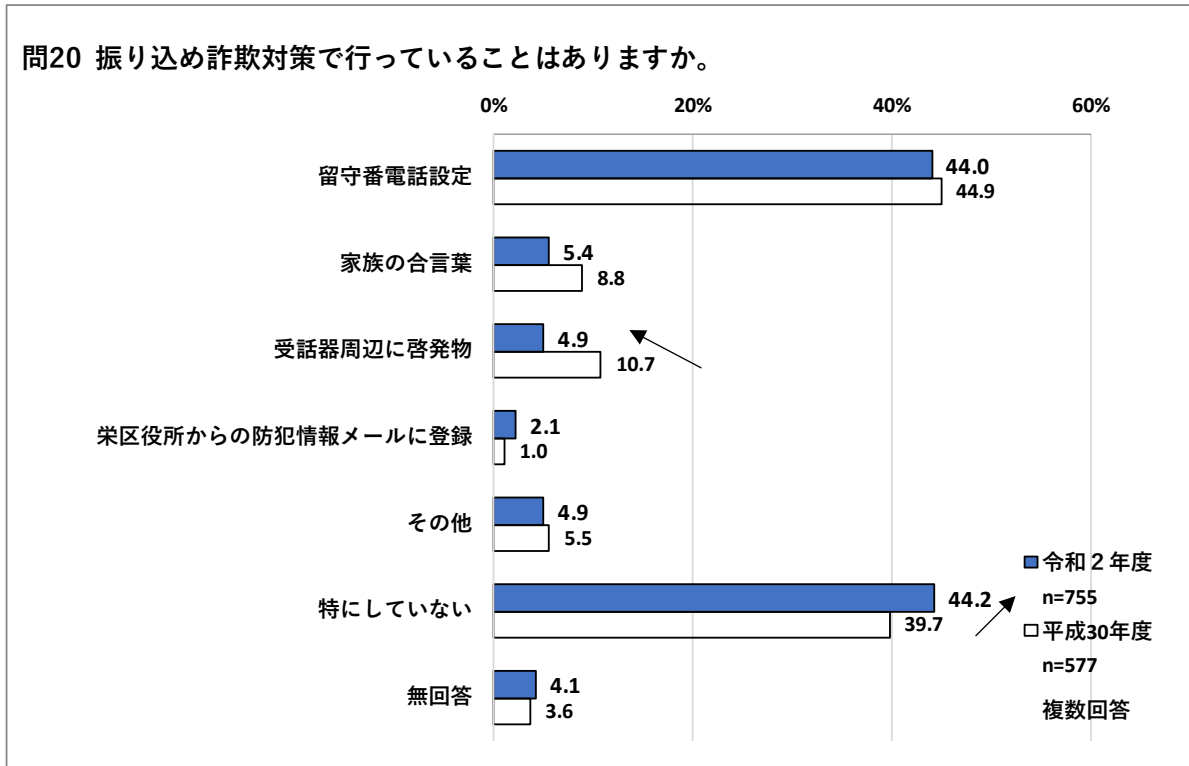
(20) 行っている振り込め詐欺対策

<全 体>

- ・行っている振り込め詐欺対策については、「留守番電話設定」が44.0%、次いで「家族の合言葉」(5.4%)、「受話器周辺に啓発物」(4.9%)の順となっている一方、「特にしていない」が44.2%となっている。

<平成30年度調査と比較>

- ・平成30年度調査と比較して、特に「受話器周辺に啓発物」が5.8ポイント減少している。一方、「特にしていない」は4.5ポイント増加している。



問20 振り込め詐欺対策で行っていること (その他記述)			
ナンバーディスプレイで知らない電話に出ない			15
非通知電話拒否	4	固定電話撤去	2
家族での話し合い	2	固定電話を設置しない	2
通話の録音	2	情報収集(TV等)	1
頭で考えているだけ	1	電話に出ない	1
隣近所への通知	1	録音装置	1
話の内容で判断	1	その他	1
カードを持たないお金も持たない(家族管理)			1
			計 35件

【行っている振り込み詐欺対策： 属性別】

＜性別＞

- ・「特にしていない」を除き、全ての項目で「男性」より「女性」の割合が高い。「特にしていない」では、「女性」より「男性」の割合が5.3ポイント高い。

＜年齢別＞

- ・全体的に年齢が高いほど振り込み詐欺対策を行っている割合が高くなる傾向があり、年齢が低いほど「特にしていない」割合が高くなる傾向がみられる。
- ・「70～79歳」では、「留守番電話設定」の割合が全体より10ポイント以上高い。

＜居住年数別＞

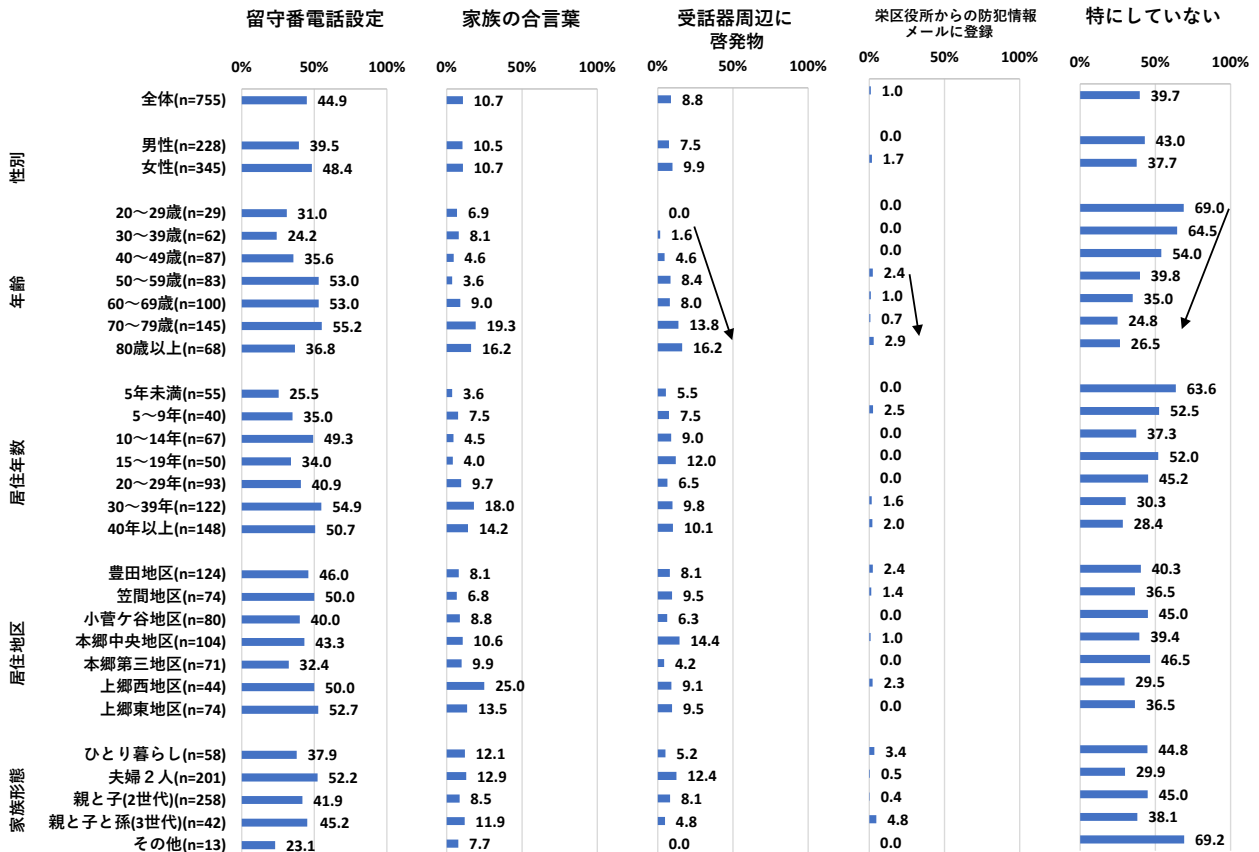
- ・「30～39年」では、「留守番電話設定」の割合が全体より10ポイント以上高い。

＜居住地区別＞

- ・「笠間地区」「上郷西地区」「上郷東地区」では、「留守番電話設定」が全体より5ポイント以上高い。
- ・「上郷西地区」では、「家族の合言葉」が全体より10ポイント以上高い。
- ・「本郷中央地区」では、「受話器周辺に啓発物」が全体より5ポイント以上高い。

＜家族形態別＞

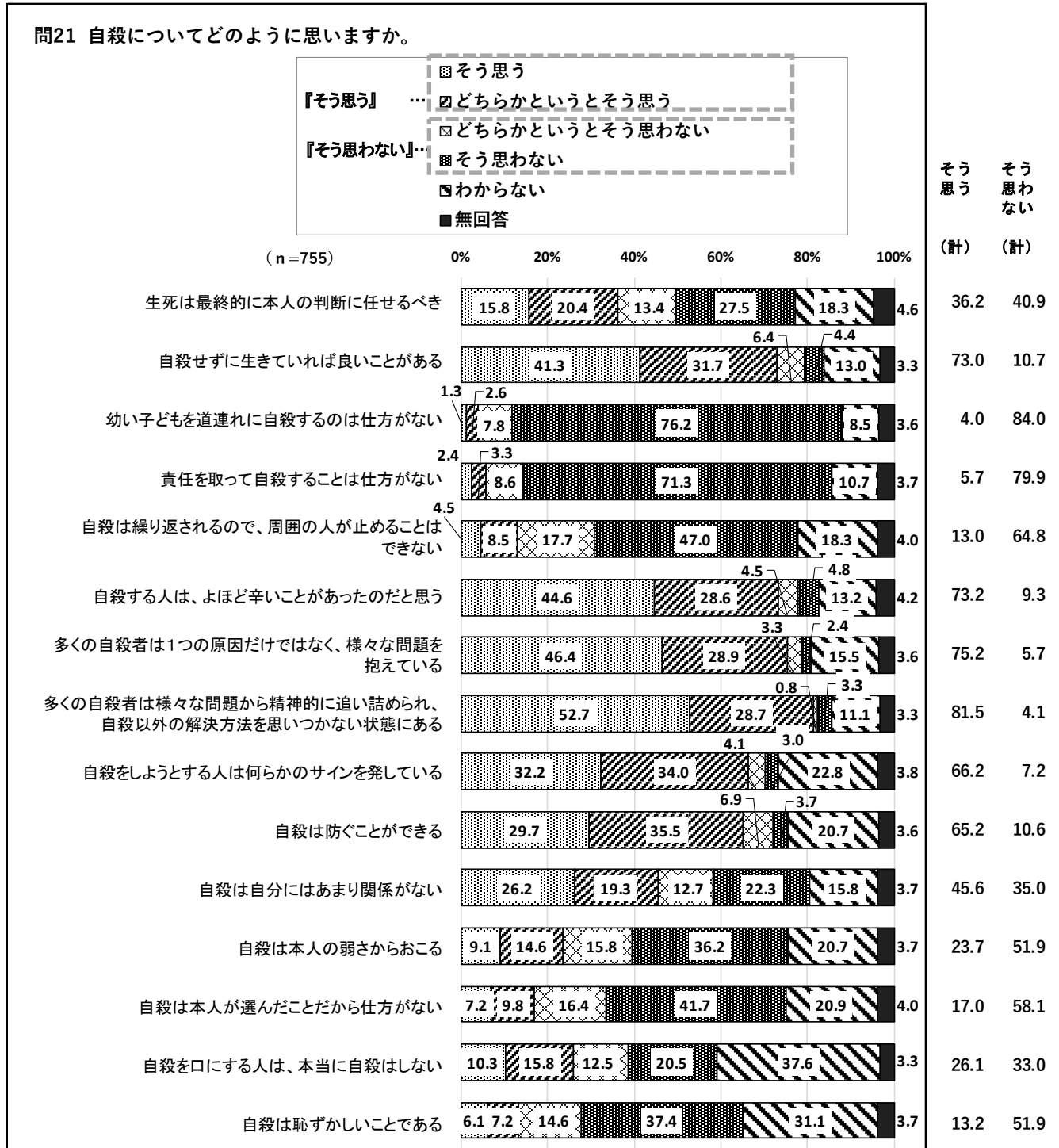
- ・「夫婦2人」では、「留守番電話設定」が全体より5ポイント以上高い。
- ・「ひとり暮らし」「親と子(2世代)」では、「特にしていない」が全体より5ポイント以上高い。



(21) 自殺についての考え方

<全 体>

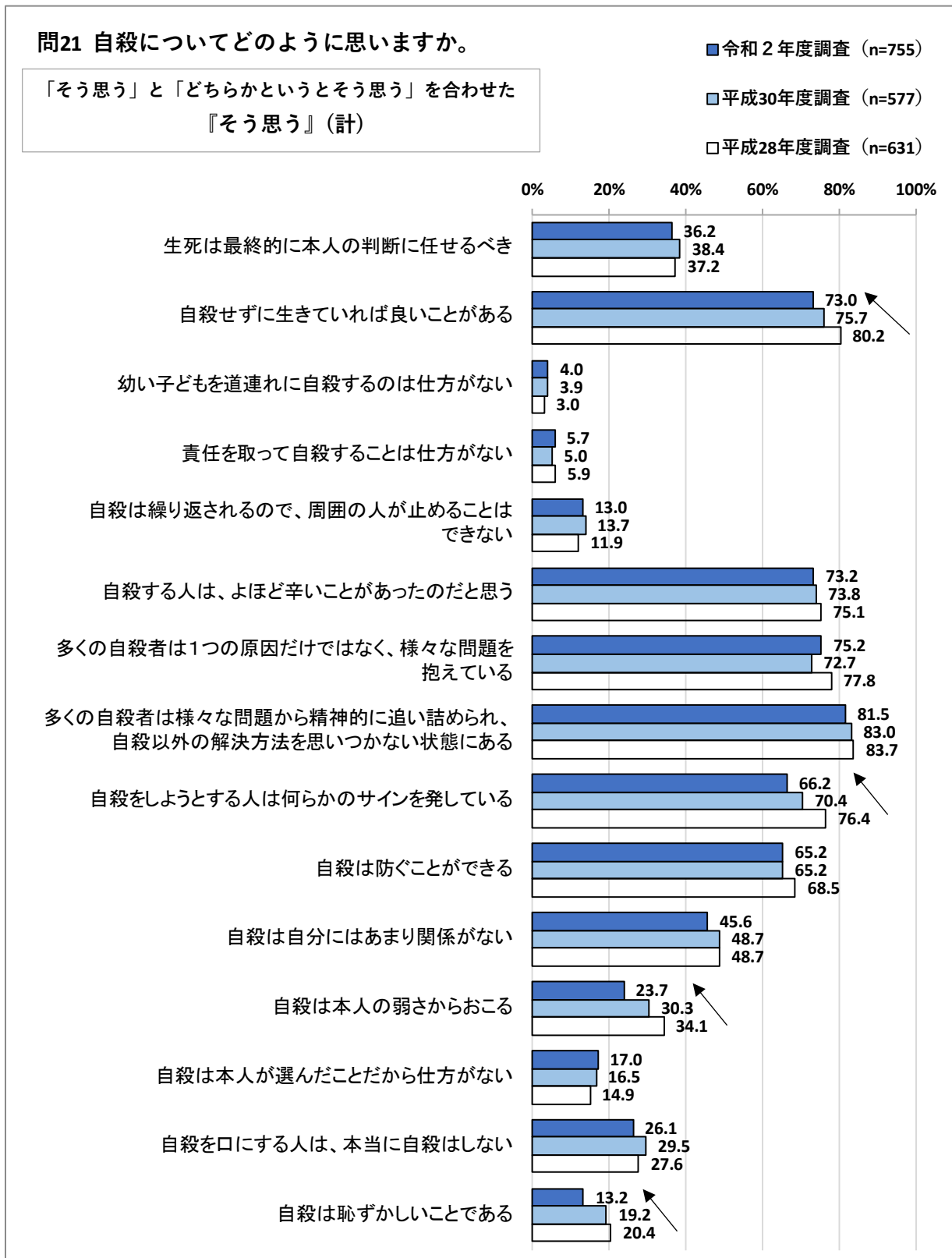
- ・「多くの自殺者は様々な問題から精神的に追い詰められ、自殺以外の解決方法を思いつかない状態にある」は「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせた『そう思う』方が8割以上、「幼い子どもを道連れに自殺するのは仕方がない」「責任を取って自殺することは仕方がない」は「そう思わない」と「どちらかというと思わない」を合わせた『そう思わない』方が約8割と高い割合になっている。



【自殺についての考え方： 時系列】

<平成28年度調査・平成30年度調査と比較>

- ・平成28年度調査・平成30年度調査と比べると、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせた『そう思う』の割合で比較すると、意識にあまり差はないが、特に「自殺せずに生きていれば良いことがある」「自殺をしようとする人は何らかのサインを発している」「自殺は本人の弱さからおこる」「自殺は恥ずかしいことである」で、『そう思う』割合が減少している。



【自殺についての考え方： 属性別】

「そう思う」「どちらかというと思わない」を合わせた『そう思う』
 「どちらかというと思わない」「そう思わない」を合わせた『そう思わない』で比較

1 生死は最終的に本人の判断に任せるべき

<性別>

・「女性」より「男性」の方が『そう思う』で7.0ポイント高く、『そう思わない』で0.1ポイント高い。「女性」の2割が「わからない」と回答し、「男性」より5.2ポイント高い。

<年齢別>

・「20～29歳」「30～39歳」では、『そう思う』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

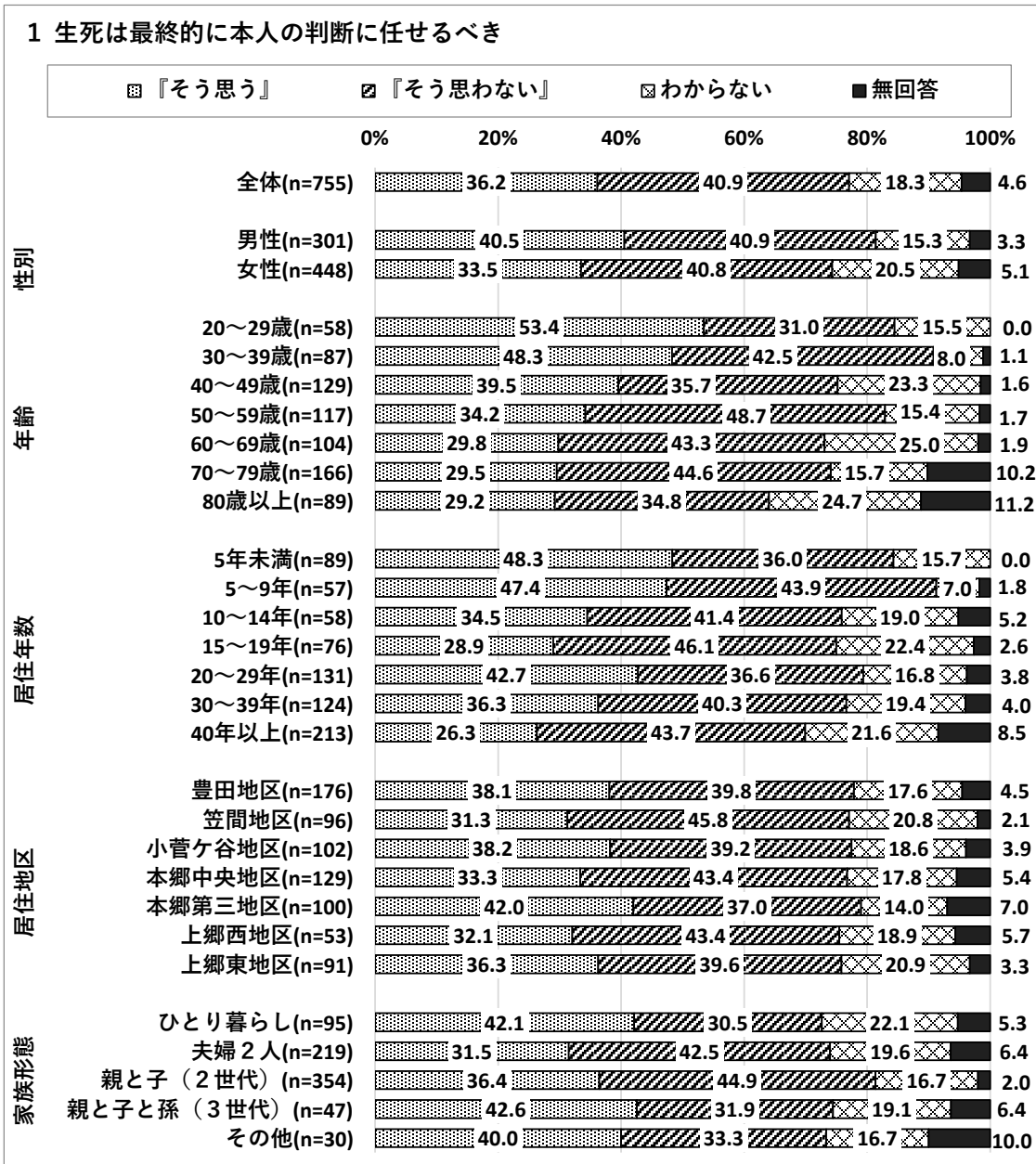
・「5年未満」「5～9年」では、『そう思う』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「本郷第三地区」では、『そう思う』が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「ひとり暮らし」「親と子と孫(3世代)」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高い。



2 自殺せずに生きていれば良いことがある

<性別>

・「女性」より「男性」の方が、『そう思う』で0.6ポイント高いがほぼ差は見られない。

<年齢別>

・年齢が上がるほど『そう思わない』の割合が低くなる傾向が見られる。「20～29歳」では、『そう思わない』の割合が全体より5ポイント以上高い

<居住年数別>

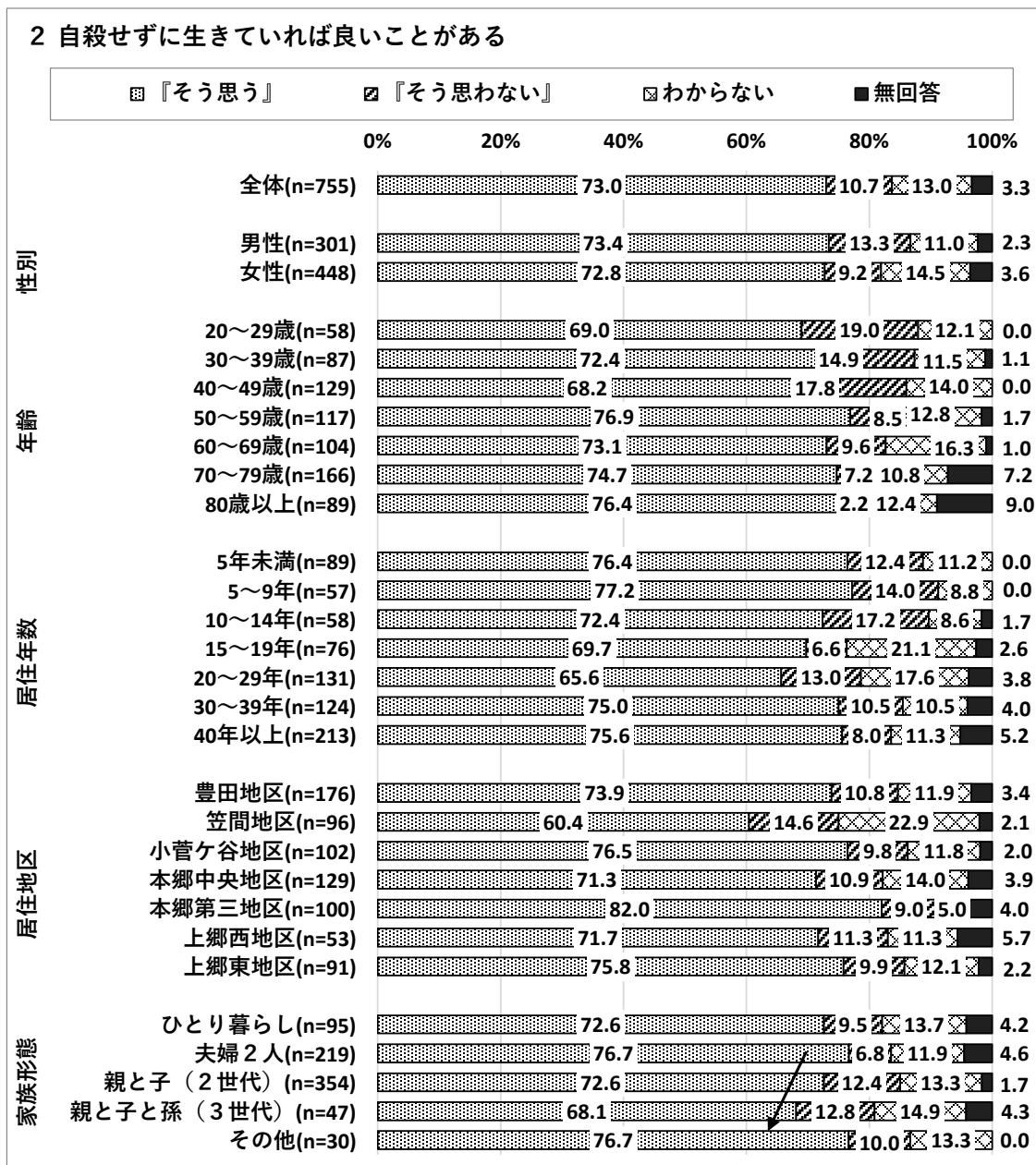
・居住年数別には、大きな差は見られない。

<居住地区別>

・「本郷第三地区」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高い

<家族形態別>

・「ひとり暮らし」を除くと、家族形態が広がるほど『そう思う』の割合は低くなる傾向が見られる。



3 幼い子どもを道連れに自殺するのは仕方がない

<性別>

・「女性」より「男性」の方が、『そう思わない』が4.6ポイント高いが男女共に8割以上の区民が「幼い子どもを道連れに自殺するのは仕方がない」とは思っていない。

<年齢別>

・「30～39歳」では、『そう思わない』の割合が全体より5ポイント程度高い。

<居住年数別>

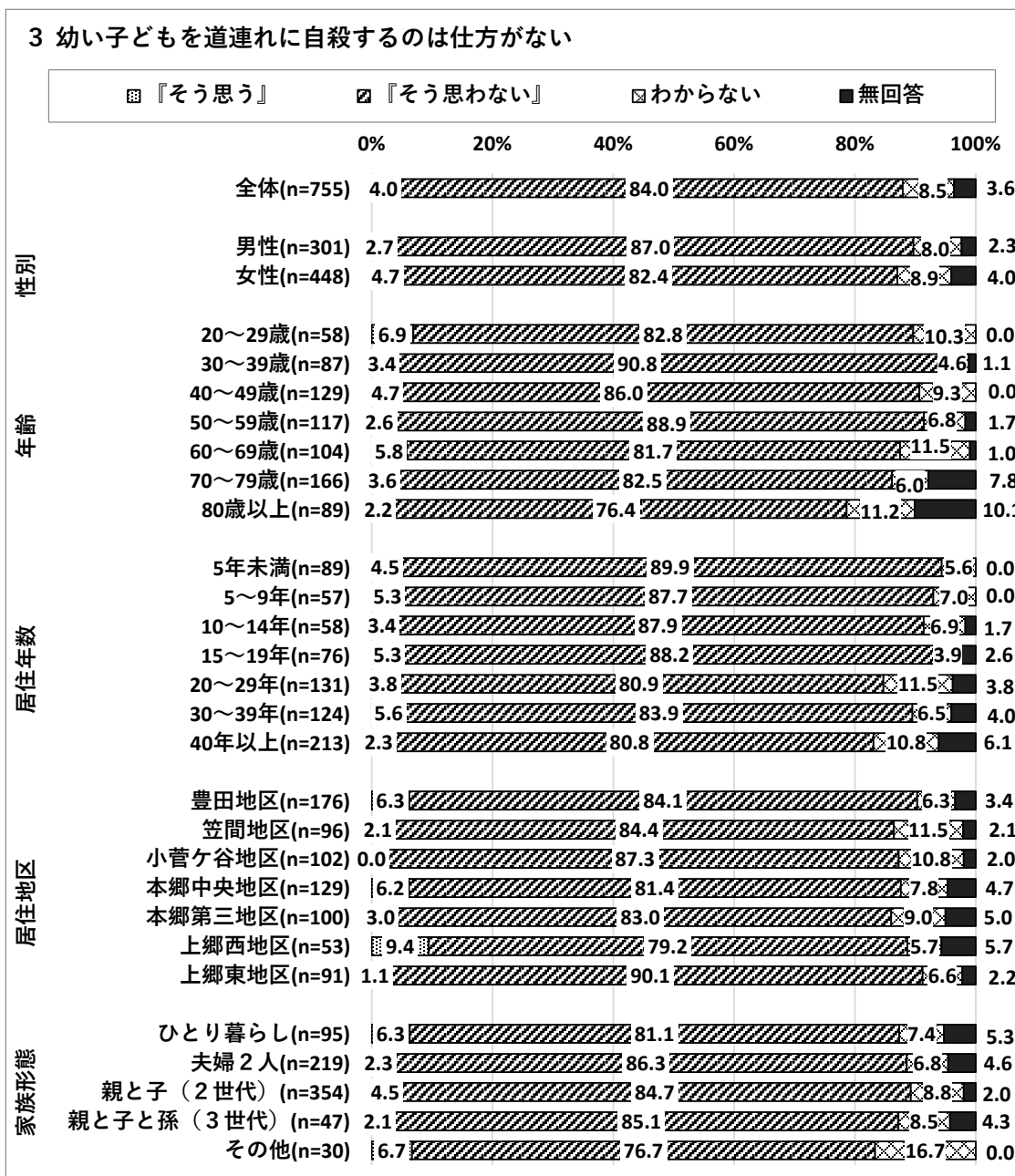
・「5年未満」では、『そう思わない』の割合が全体より5ポイント程度高い。

<居住地区別>

・「上郷東地区」では、『そう思わない』の割合が5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態には、大きな差はみられない。



4 責任を取って自殺することは仕方がない

<性別>

・「女性」より「男性」の方が、『そう思う』が2.3ポイント高いが男女共に約8割の区民が「責任を取って自殺をすることは仕方がない」とは思っていない。

<年齢別>

・「30～39歳」では、『そう思わない』の割合が93.1%と全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

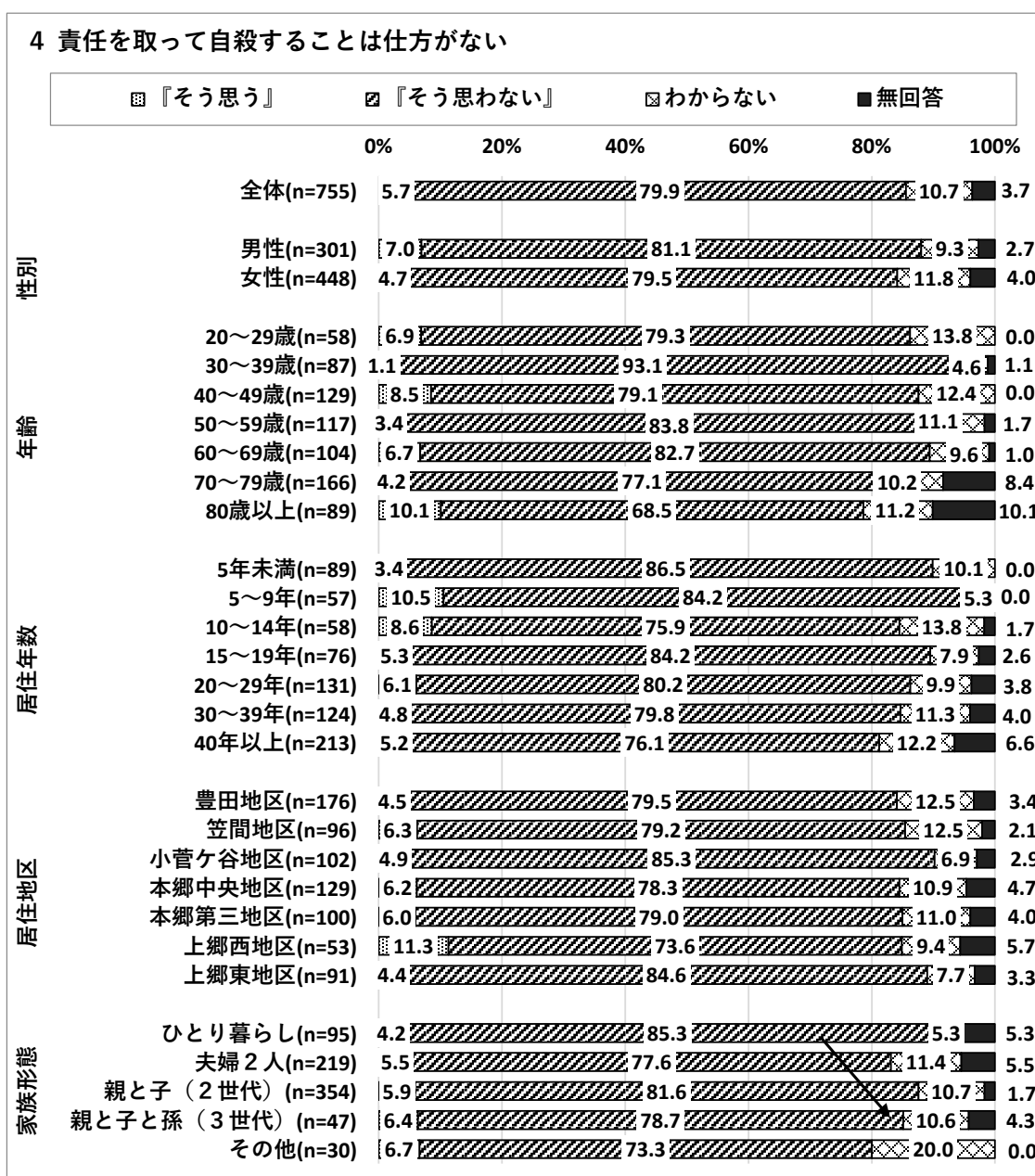
・「5年未満」では、『そう思わない』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では『そう思う』の割合が、「小菅ヶ谷地区」では『そう思わない』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「ひとり暮らし」では、『そう思わない』の割合が全体より5ポイント以上高いが、「ひとり暮らし」以外では、家族形態が広がるほど『そう思わない』の割合が高くなる傾向が見られる。



5 自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない

<性別>

・「女性」より「男性」の方が、『そう思う』が3.6ポイント高いが男女共に6割以上の区民が「自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない」とは思っていない。

<年齢別>

・「20～29歳」では、『そう思う』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

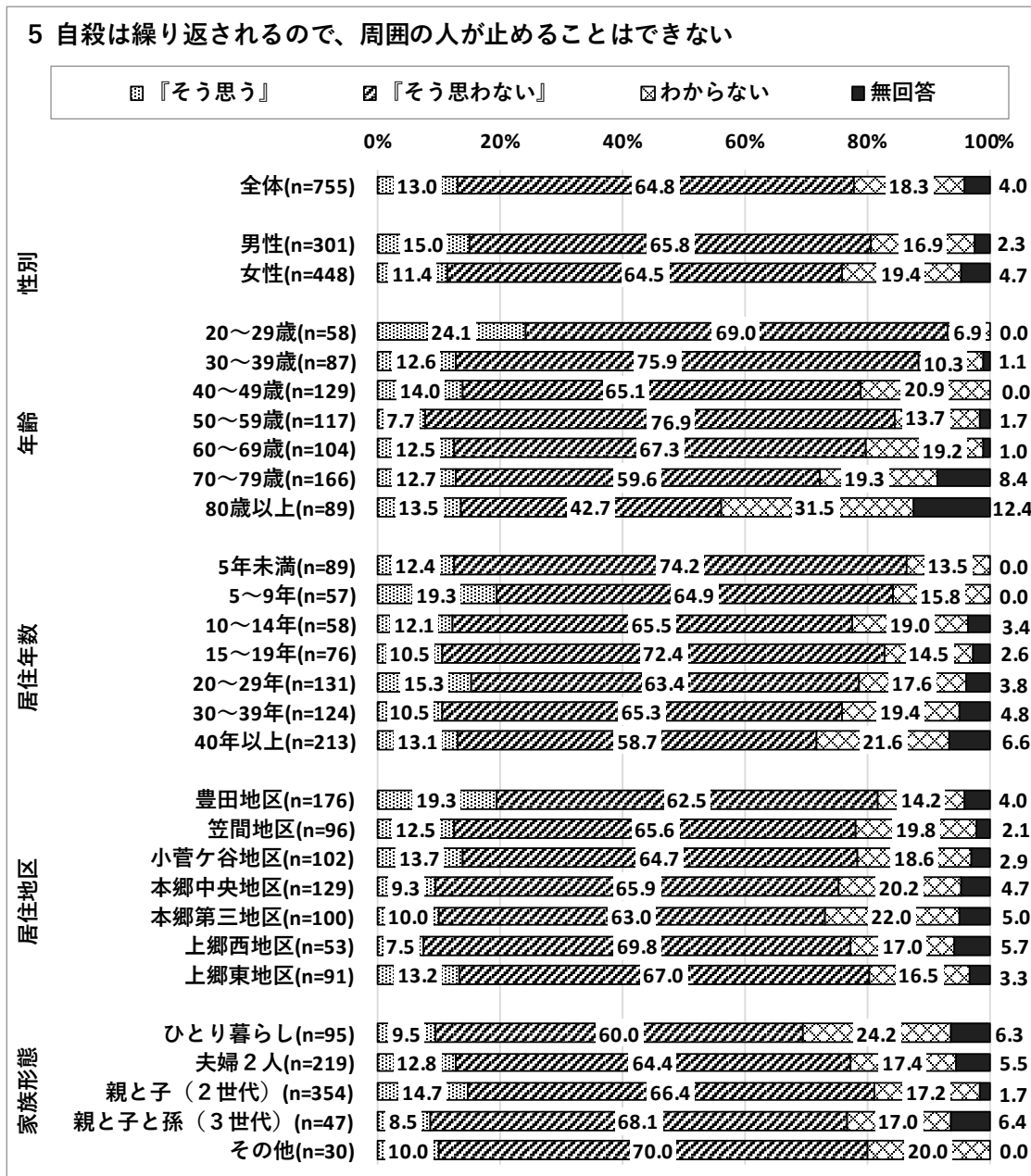
・「5～9年」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高く、「5年未満」「15～19年」では、『そう思わない』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「豊田地区」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別では、大きな差は見られない。



6 自殺する人は、よほど辛いことがあったのだと思う

<性別>

・「女性」より「男性」よりの方が、『そう思う』の割合が3.5ポイント高いが、男女共に7割以上の区民が「自殺をする人はよほど辛いことがあったのだと思う」と感じており、男女間に大きな差は見られない。

<年齢別>

・「20～29歳」「60～69歳」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

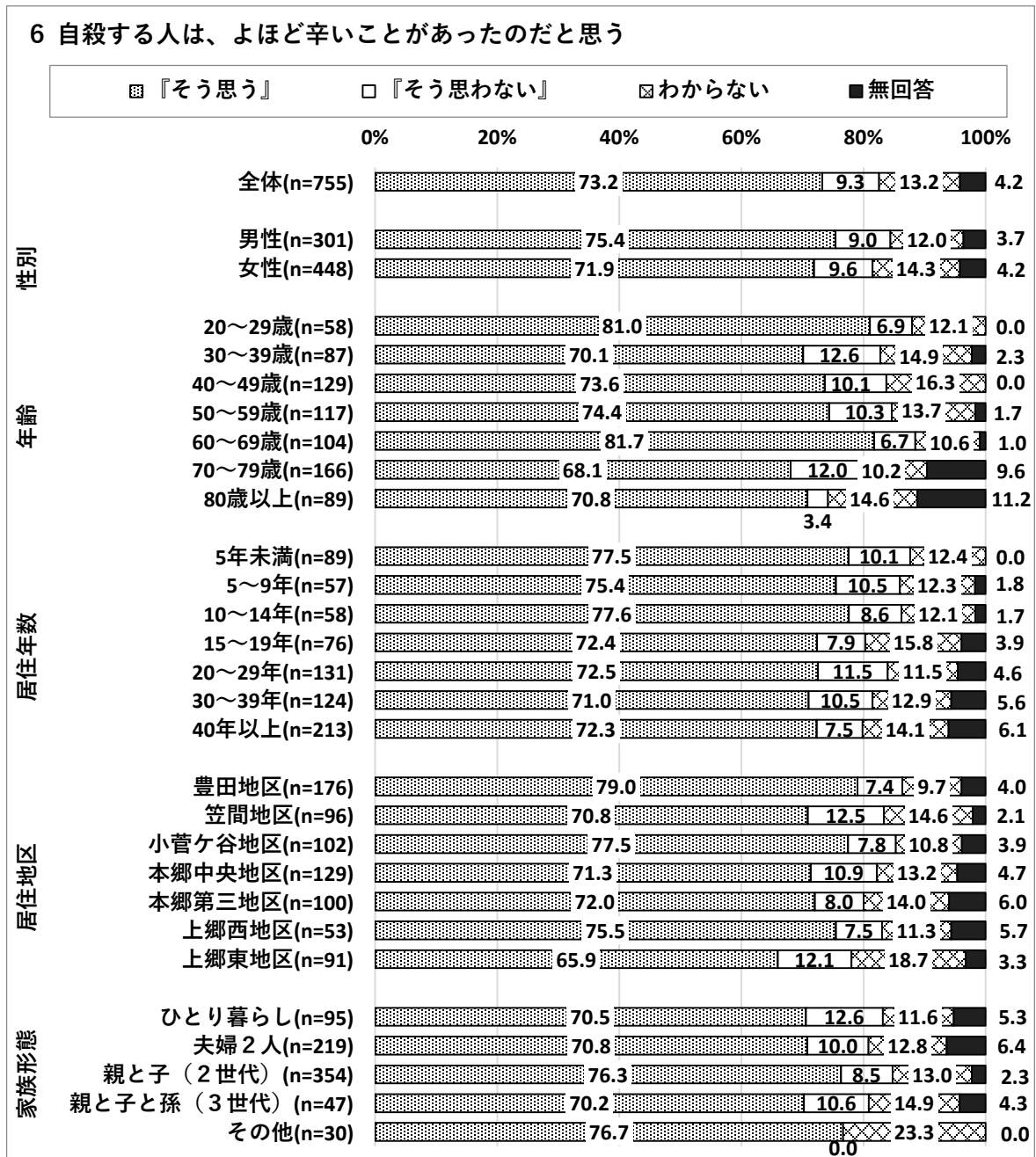
・居住年数別では、大きな差は見られない。

<居住地区別>

・「豊田地区」では、全体より『そう思う』の割合が5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別では、大きな差は見られない。



7 多くの自殺者は1つの原因だけではなく、様々な問題を抱えている

<性別>

・「女性」より「男性」の方が、『そう思う』で、1.8ポイント高いが、男女共に7割以上の区民が「多くの自殺者は1つの原因だけではなく、様々な問題を抱えている」と感じており、男女間に大きな差は見られない。

<年齢別>

・「20～29歳」「30～39歳」では、『そう思う』の割合が全体より10ポイント以上高く、年齢が上がるほど低くなる傾向が見られ、「80歳以上」では、全体の10ポイント以上低くなっている。

<居住年数別>

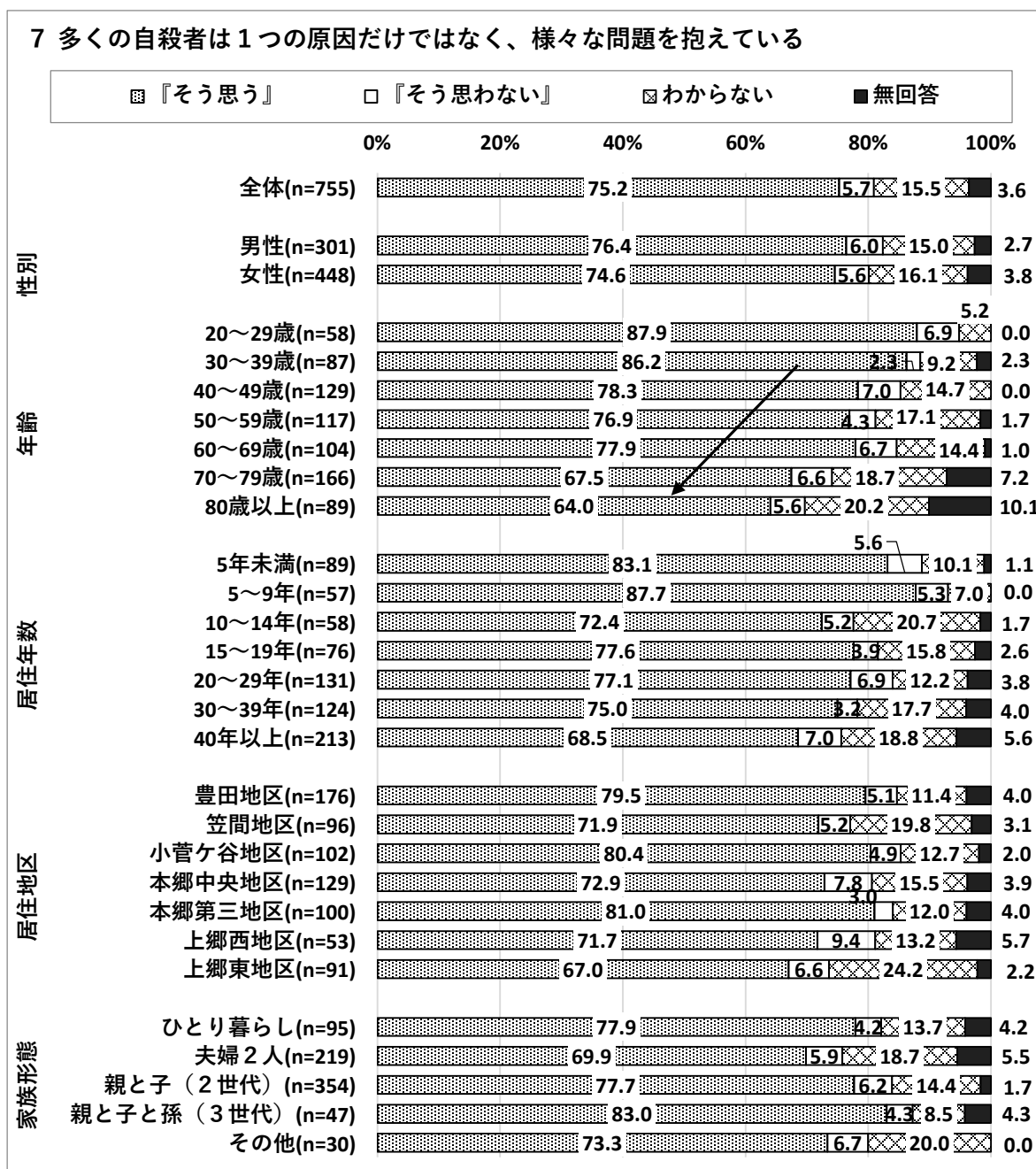
・「5～9年」では、『そう思う』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「小菅ヶ谷地区」「本郷第三地区」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫（3世代）」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高い。



8 多くの自殺者は様々な問題から精神的に追い詰められ、自殺以外の解決方法を思いつかない状態にある

<性別>

・「女性」より「男性」の方が、『そう思う』で、1.4ポイント高いが、男女共に8割以上の区民が「多くの自殺者は様々な問題から精神的に追い詰められ、自殺以外の解決方法を思いつかない状態にある」と感じている。

<年齢別>

・「20～29歳」「30～39歳」「40～49歳」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高く、年齢があがるほど低くなる。

<居住年数別>

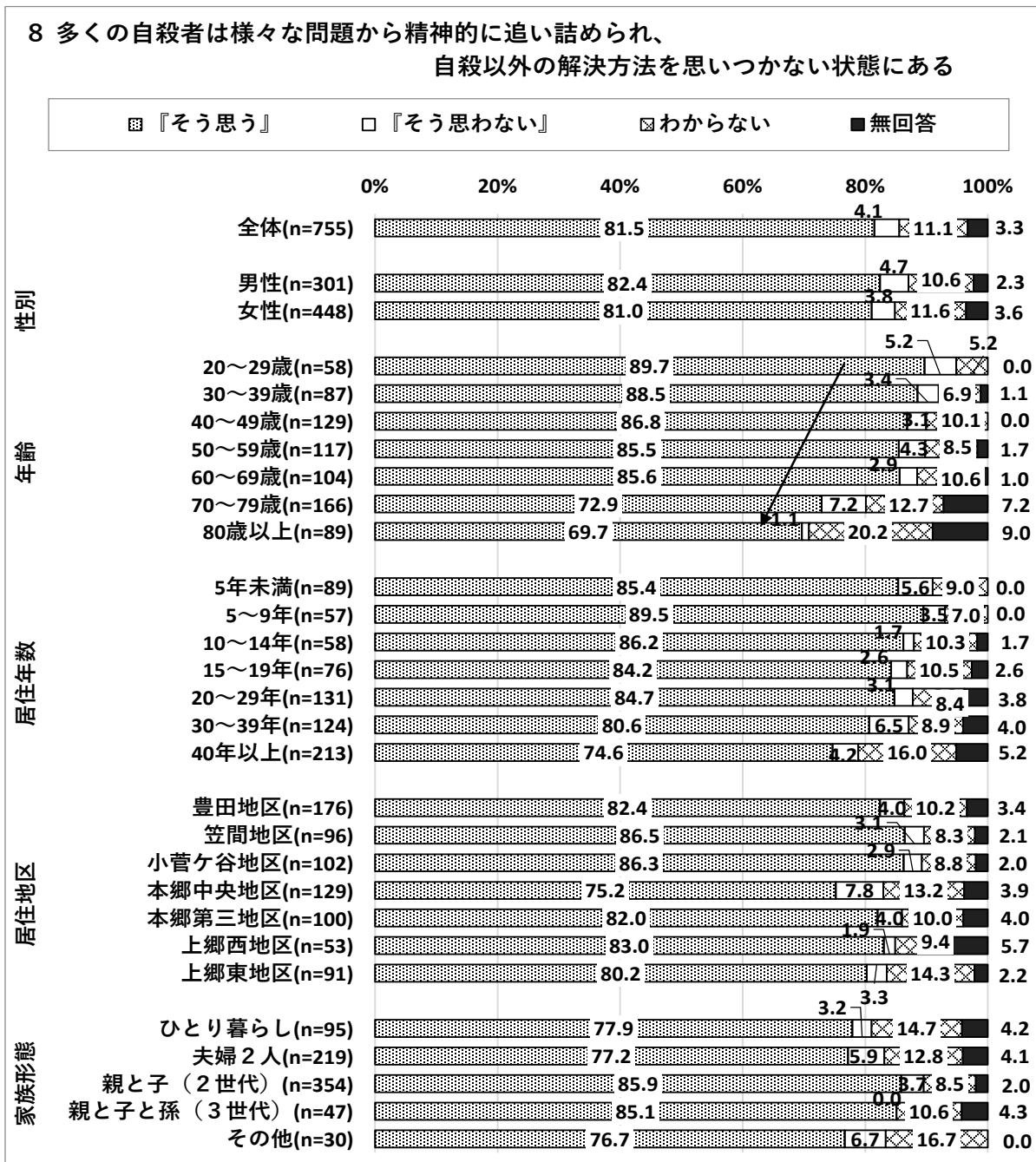
・「5～9年」では、『そう思う』が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「笠間地区」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別では、大きな差は見られない。



9 自殺をしようとする人は何らかのサインを発している

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、『そう思う』で、1.9ポイント高いが、男女共に6割以上の区民が「自殺をしようとする人は何らかのサインを発している」と感じている。

<年齢別>

・「50～59歳」では、『そう思う』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

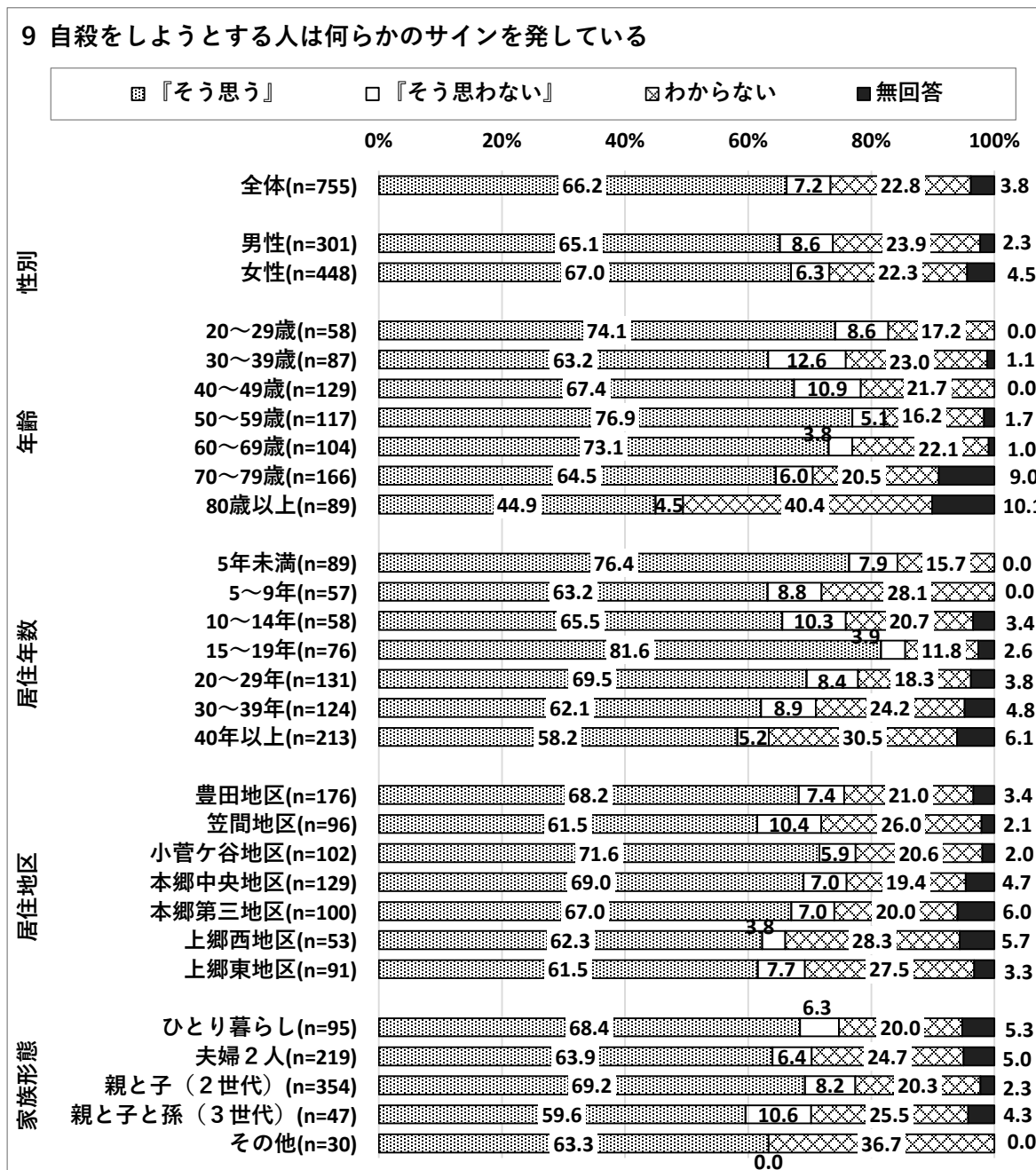
・「5年未満」では、『そう思う』の割合が全体より15ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「小菅ヶ谷地区」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別では、大きな差は見られない。



10 自殺は防ぐことができる

<性別>

・「女性」より「男性」の方が、『そう思わない』が2.4ポイント高いが、男女共に6割以上の区民が「自殺は防ぐことができる」と感じている。

<年齢別>

・「60～69歳」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

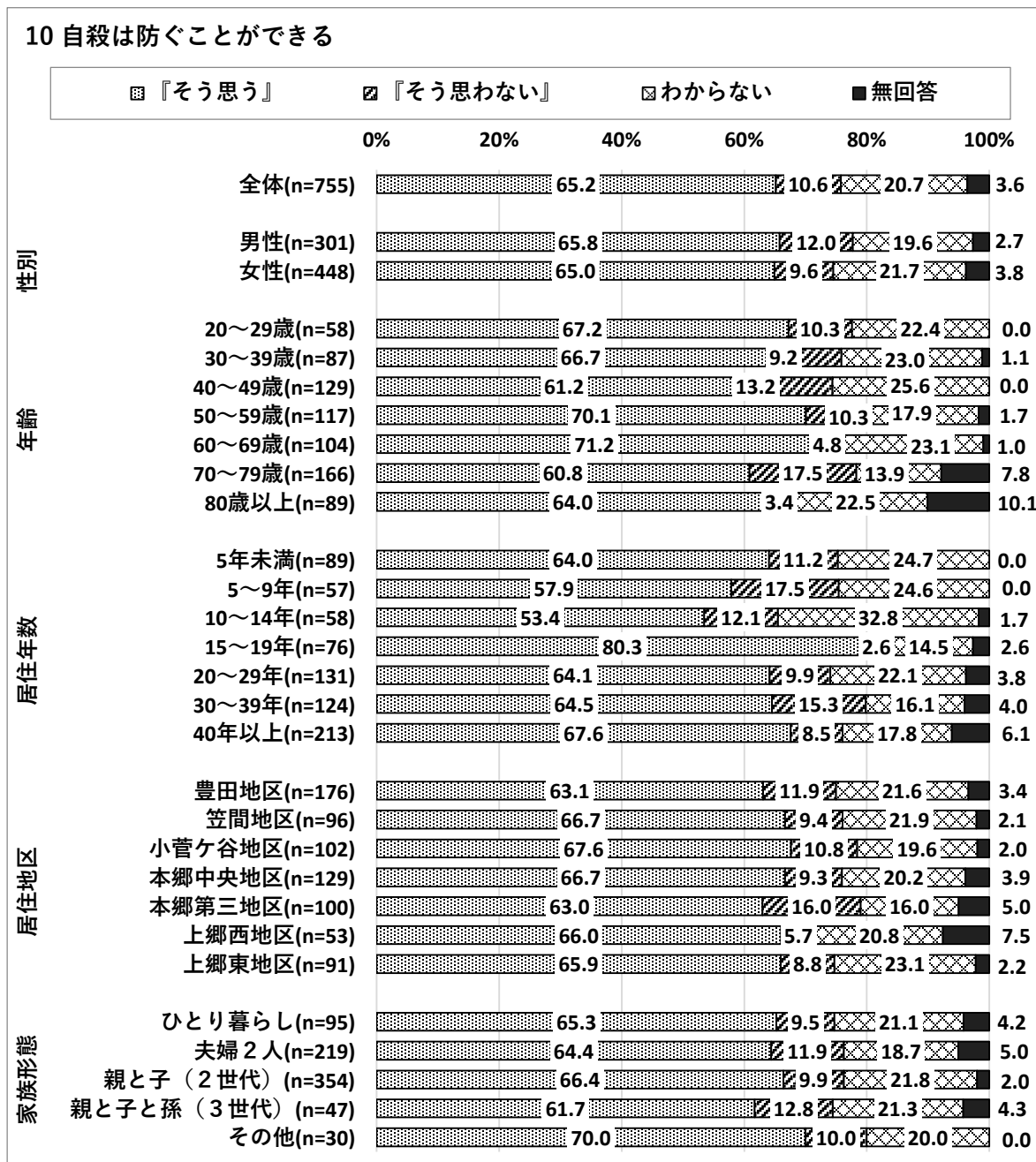
・「15～19年」では、『そう思う』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「本郷第三地区」では、『そう思わない』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別では、大きな差は見られない。



11 自殺は自分にはあまり関係がない

<性別>

・「女性」より「男性」の方が、『そう思う』で、1.9ポイント高いが、大きな差は見られない。

<年齢別>

・「30～39歳」では、『そう思わない』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

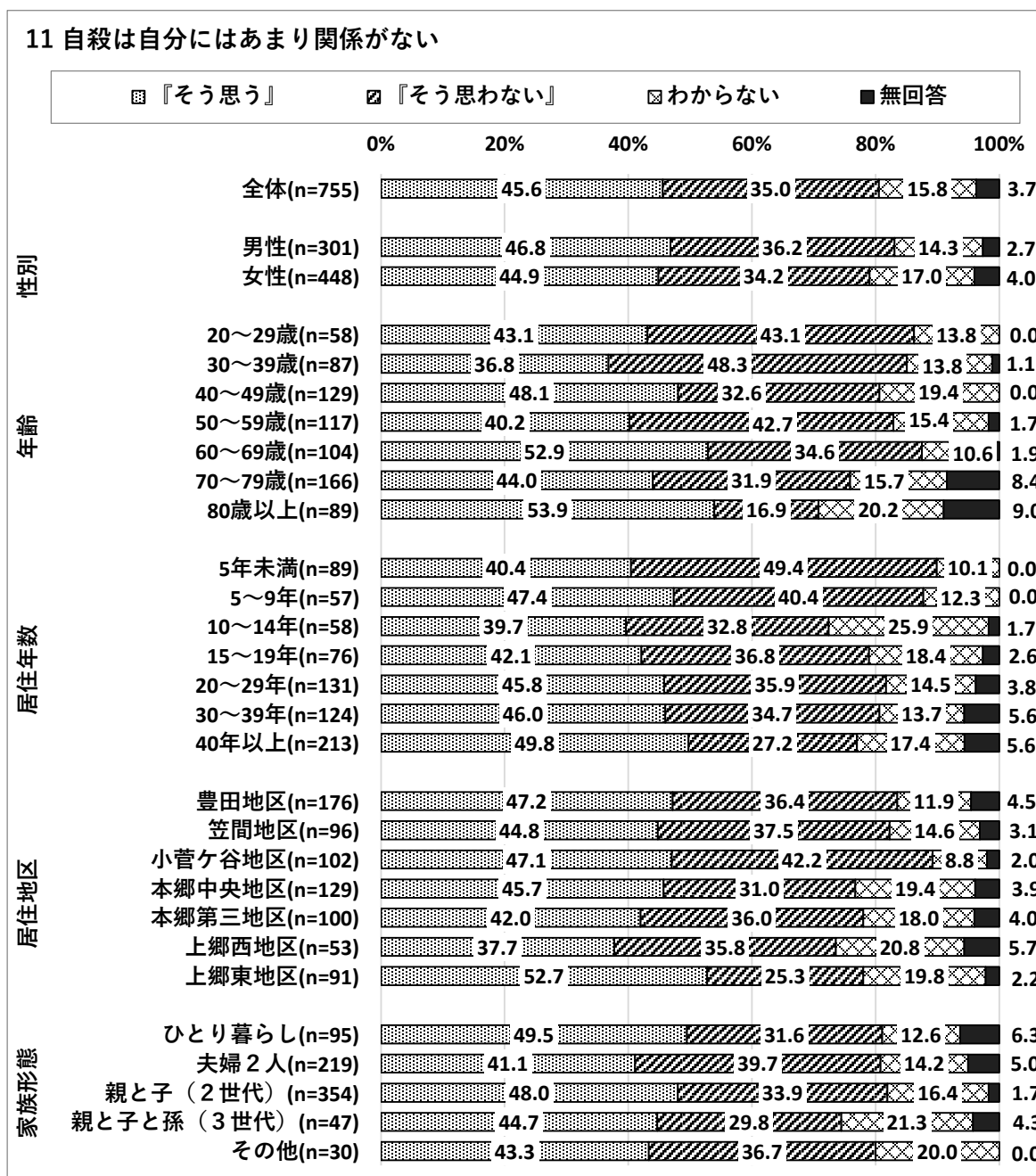
・「5年未満」では、『そう思わない』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「本郷東地区」では、『そう思う』が、「小菅ヶ谷地区」では、『そう思わない』の割合が全体より5ポイント以上高い。『そう思わない』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別では、大きな差は見られない。



12 自殺は本人の弱さからおこる

<性別>

・「男性」の約3割が『そう思う』で、「女性」より15.8ポイント高い。

<年齢別>

・「80歳以上」では、『そう思う』の割合が全体より15ポイント以上高く、「20～29歳」では、『そう思わない』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

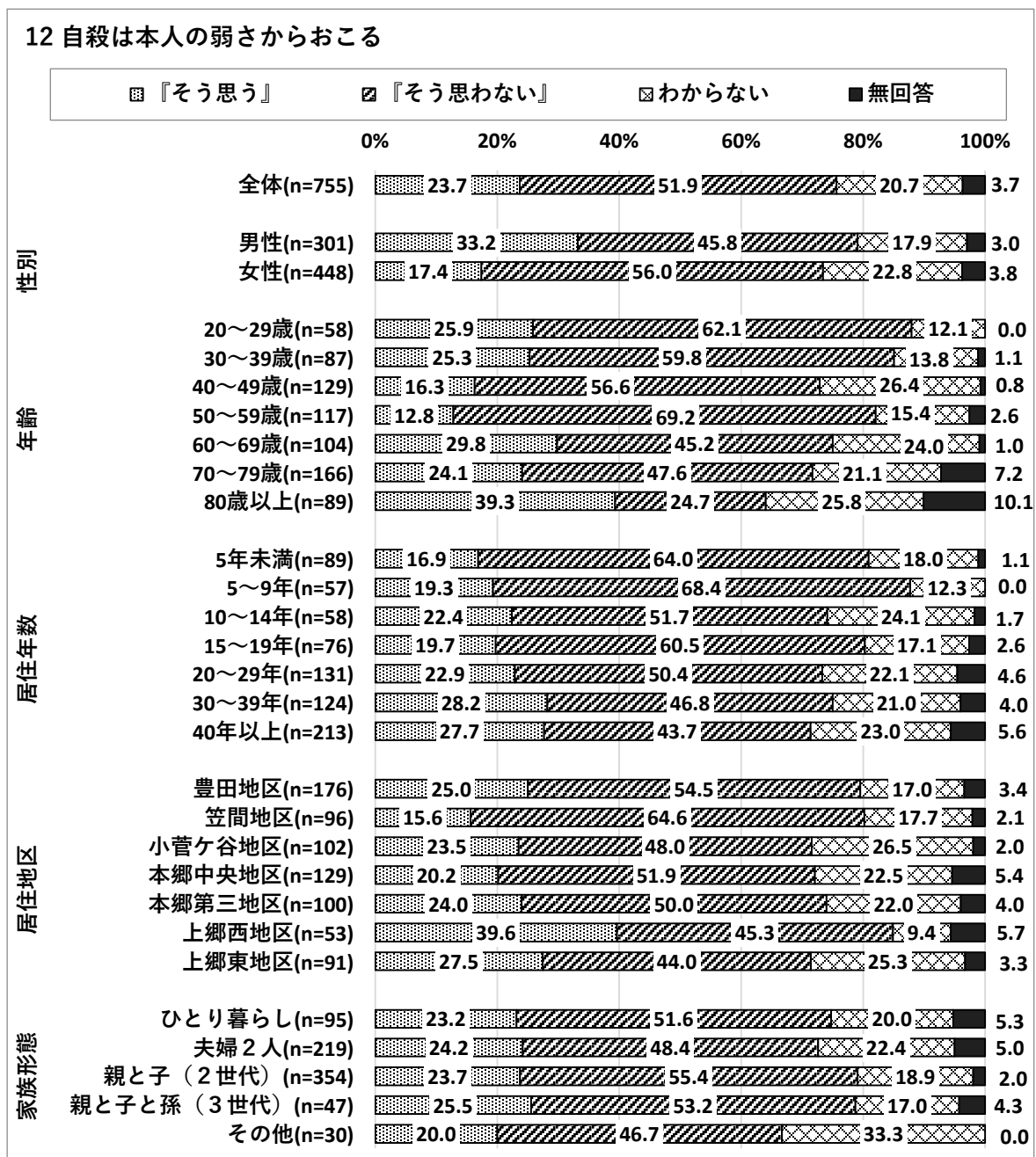
・「5年未満」「5～9年」では、『そう思わない』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、『そう思う』が、「笠間地区」では『そう思わない』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別では、大きな差は見られない。



13 自殺は本人が選んだことだから仕方がない

<性別>

・「女性」より「男性」の方が、『そう思う』が3.3ポイント高いが、男女共に約6割の区民が「自殺は本人が選んだことだから仕方がない」とは思っていない。

<年齢別>

・「20～29歳」では、『そう思う』が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「5年未満」では、『そう思わない』の割合が全体より10ポイント以上高い。

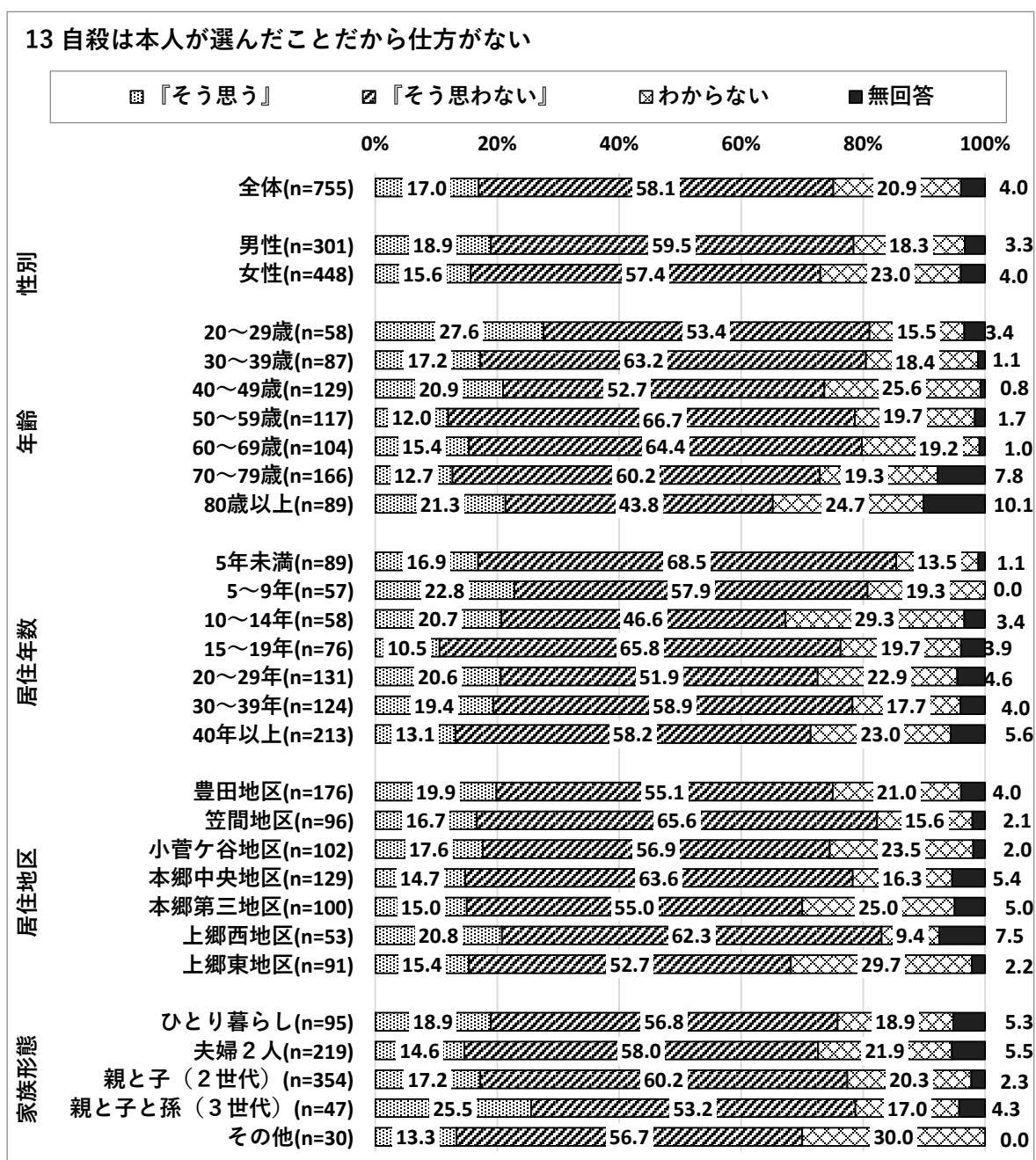
・「5年～9年」では、『そう思う』が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「笠間地区「本郷中央地区」では、『そう思わない』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫（3世代）」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高い。



14 自殺を口にする人は、本当に自殺はしない

<性別>

・男女共に、『そう思う』と『そう思わない』が3割程度で拮抗しており、男女間に大きな差はない。

<年齢別>

・「20～29歳」「30～39歳」「40～49歳」では、『そう思わない』が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

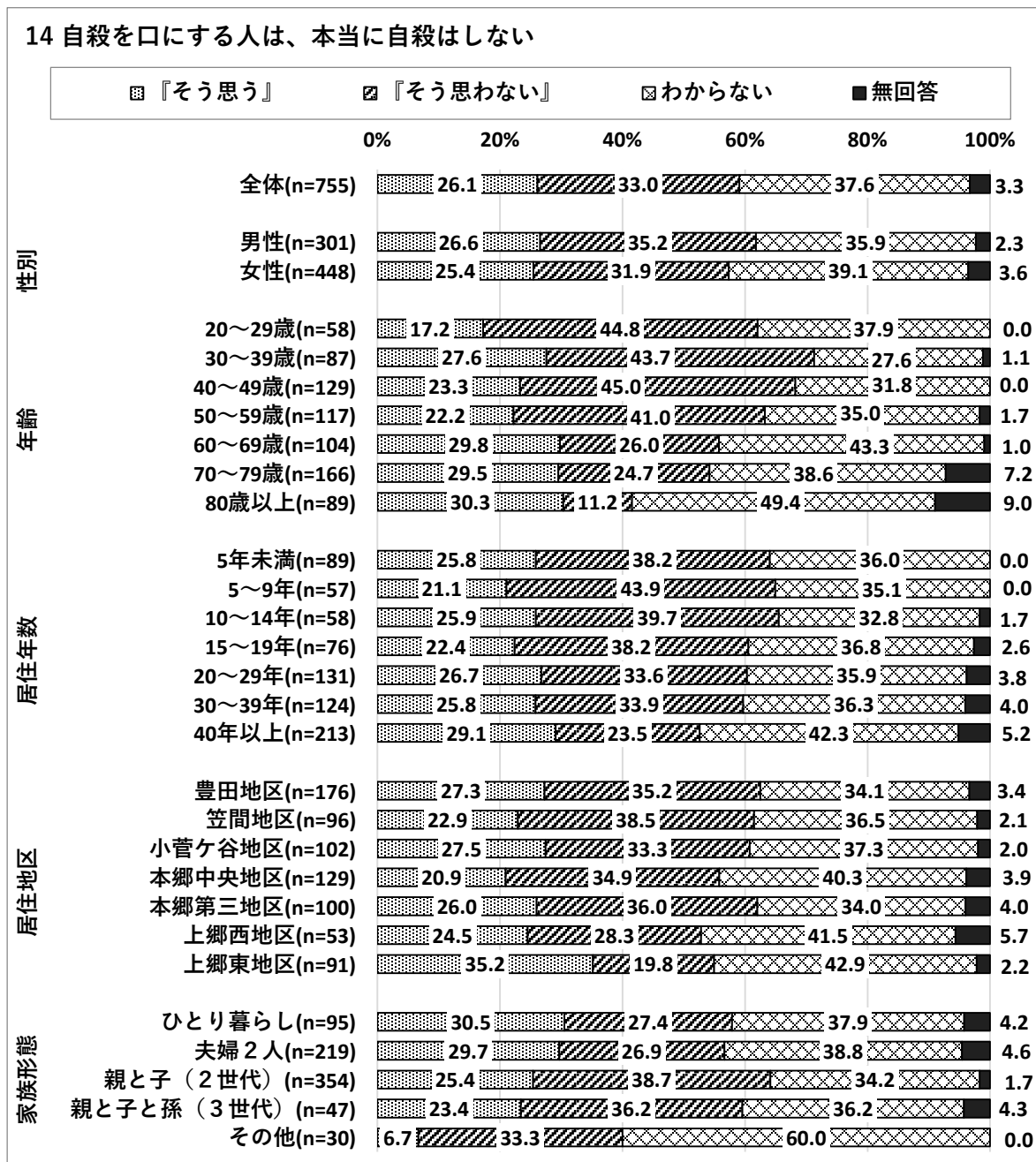
・「5～9年」では、『そう思わない』割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷東地区」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高く、「笠間地区」では、『そう思わない』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子（2世代）」では、『そう思わない』割合が全体より5ポイント以上高い。



15 自殺は恥ずかしいことである

<性別>

・「女性」より「男性」の方が、『そう思う』で9.7ポイント高いが、男女共に約5割以上の区民が「自殺は恥ずかしいことである」とは思っていない。

<年齢別>

・「80歳以上」では、『そう思う』の割合が全体より10ポイント以上高く、「30～39歳」「40～49歳」では、『そう思わない』の割合が全体より10ポイント以上高い。
 ・40歳以上で年齢が上がるほど『そう思う』の割合が増える傾向がみられる。

<居住年数別>

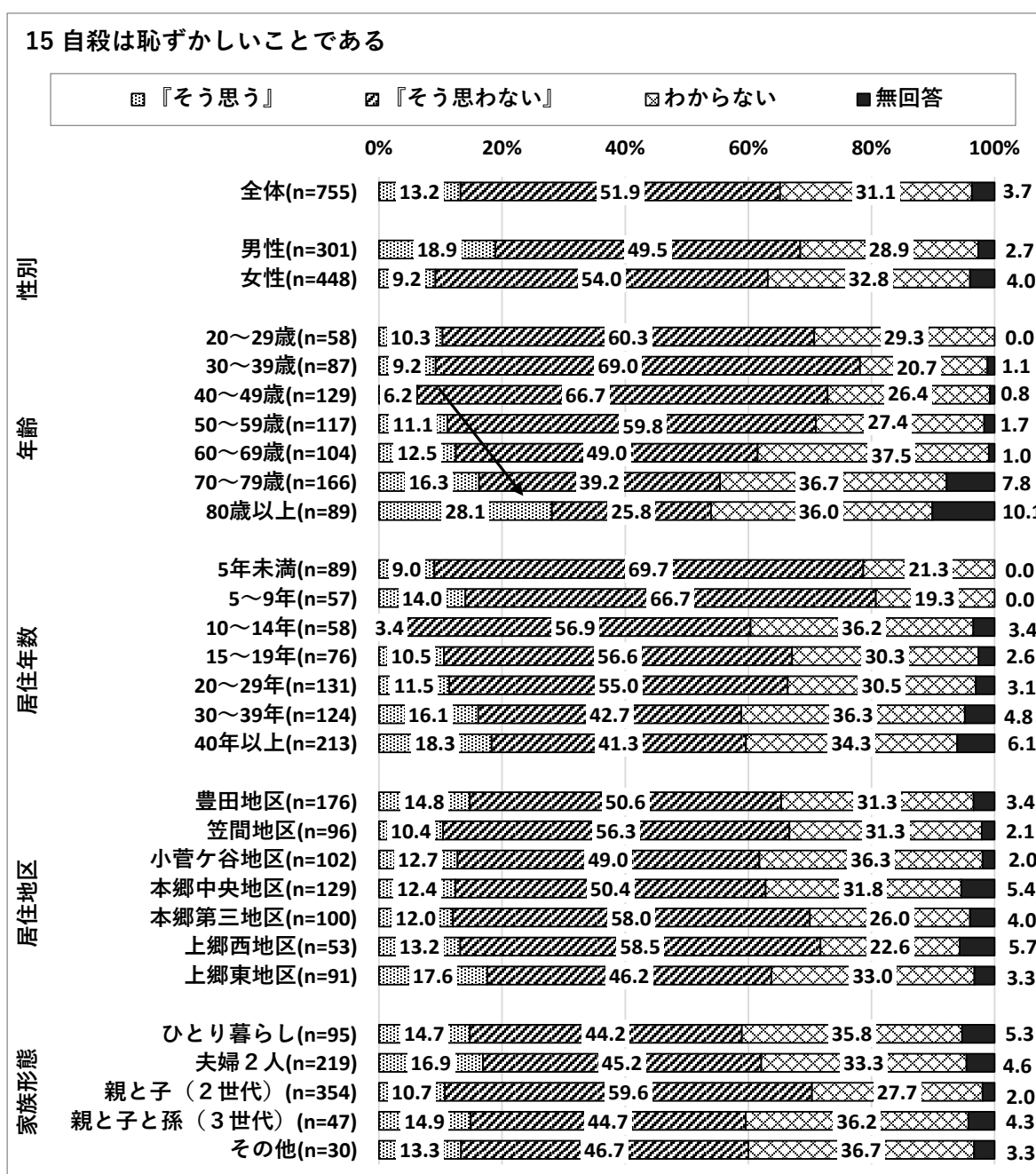
・「5年未満」「5～9年」では、『そう思わない』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「本郷第三地区」「上郷西地区」では、『そう思わない』が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子（2世代）」では、『そう思わない』が全体より5ポイント以上高い。



(22) セーフコミュニティについてのご意見やご要望

- ・セーフコミュニティについてのご意見やご要望に関する自由記述欄には、全部で83件（11.0%）の回答がありました。

意見の種類	件数	主な意見内容
感想	39	<ul style="list-style-type: none"> ・命のある限り、安心安全な生活が大切 ・今迄、あまり考えていなかった事ですが、生活や生きていく上で重要な事ばかりですね。もっと身近なものにしたいと感じました。 ・具体的に…とは、すぐに思いつきませんが、より良い栄区になってくれるよう、よろしく願います。私も微力ながら、協力できることには参加して行きたいと思えます。 ・このアンケートで、くわしくセーフコミュニティについて知ることができました。少なからず、本当に必要な所に支援が届いていないと思う事があります。このような活動が進んで、本当に必要なところに支援の届くようになってもらえたら良いと思えます。 ・この取組みに協力頂いている方々に感謝しています。コロナでご近所との接する機会が減っていますが、安全にお互いが気軽に助け合えるように、コロナ時代の顔の見える近所付き合いを再開してほしいです。 ・質問事項が具体的でとてもいい。地域でのとりくみは取りくむのも少し距離感を感じるものでそれがなくなるといいなと思う。 ・#7119やいじめ相談などの電話相談を利用したことがありますが全く役に立たない。全ての電話相談の対応する方の知識や判断力の低さを感じた。（もっと親身になれないのか？）知識の向上が必要だと思う。 ・心が弱っている時に誰かと話したい…と思った人が気軽に話せる電話や場所については、講習を受けた年配者（ボランティア）にお願いしては？時間のある高齢者は多いはず。 ・栄区は元気なご年配の方が多く住んでいらっしゃるイメージです。是非ともSCの取組みに積極的に参加頂いて、安心安全なコミュニティ作りにご協力頂きたいと感じています。そうする事で彼ら彼女ら自身の健康にも繋がると思えます。
プロモーション（広報）	16	<ul style="list-style-type: none"> ・栄区民の認知度は低いと思うので、もっと知らせるべきだと思います。改めて栄区は素晴らしい所だと思います。 ・恥ずかしながら、「栄区で」取り組まれているものをあまり知らなかった。（国としての取り組みならニュースで見るから耳にするが区となると難しい・・・） ・大切なお仕事、積極的な広報をお願いします。 ・デジタル化希望 ・8つの分野で形成されていますが、1つ1つに強化週間など重点的に行っていくのは、どうでしょうか。あと、セーフコミュニティの周知徹底が十分ではない。もっと積極的にPRした方が良いでしょう。 ・現在は、地区の回覧板でしか情報を得ることができていないため、セーフコミュニティについても回覧でお知らせをいただけるとありがたいです。 ・高齢者の多い栄区で「セーフコミュニティ」がイメージつかないのでは？日本語で「安全な町づくり」のような何かがあった方が、理解認知されそう。 ・取り組み活動の方向や実施計画の作成とフォローと広報活動で具体的に報告してほしい。 ・数年前、突然「栄区がセーフコミュニティ宣言した」と知ったが、何の事が不明だった。言葉だけが一人歩きし、区民にも少しわかり易い方法、内容で伝える必要があるのではと感じました。様々な安全、安心にとりくみ、より良い地域で暮らす為の「セーフコミュニティさかえ」であることを今回再認識しました。
生活の安心・安全	10	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに顔の見える関係づくりを築いていく必要があると思えます。 ・自殺や虐待の増加は貧富の格差が拡大しているためと思う。消費税の撤廃や累進課税を強化すべきと思う。生活が安定すれば安全性も高まると思う。 ・若い世代の移住、定住を促す対策を実施して欲しい。高齢者が多く近所で助け合いを勧められるのは負担が大きい。企業誘致による財政確保して、住民の安全を強化して欲しい。 ・子供が歩くのに危険な所が沢山あると思えます。空家が火災になったりして危険だと思えます。皆が安心安全で住みやすい町作りをしてほしいです。 ・核家族化がすすみ、高齢者さえも超個人主義者が増えたのを感じます。（あいさつさえしない）いざという時や異変を察知するために人とのつながり、地域はみんなで作り支え合うという意識を再び呼びおこせませんか？知り合い以外はしりません！という人があまりに多いです。さみしいしかなしいです。 ・いたち川周辺がものすごくきついです。（特に天神橋のバス停～富士スーパー裏ずっと）栄区のシンボルなのでからきれいにしたいです。 ・栄区は、横浜市内でも高齢者が多く将来の展望が明るくなった地域であるが、都市計画による若がり政策がみえてこない。東上郷町などは限界集落への道を進んでいるように思える。
災害への備え	5	<ul style="list-style-type: none"> ・近くに川があり、大きな橋や道路があり、災害などでは避難所が近くにあってとしても、行けない、マンションの屋上へ行ける様にして欲しい。 ・近くに逃げられる公園等はなく、区の違う所にある公園の方が近い。 ・地域避難所と地域防災拠点（公立小学校？）、広域防災拠点（山手学院？）の使い方の違いがよくわからない。 ・地震の震度発表で栄区がでてこない。早く発表されるようにしたい。 ・ハザードマップの普及と今後起こりうるであろう大地震などの対策の普及といったハードだけでなく、ソフトの対策もすべき。
高齢者の安全	4	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を介護する側は孤立しがちです。自殺の事子供の事も大切ですが… ・当アンケートがどのように活用されるのを知りたい。以前のアンケート調査結果は拝見したが、調査によって今後どのように変化対応していくとしているのか、何をしたら分かるのかを知りたい。自由記述にあった意見や要望に対しての回答、対応策などが見えていない。スーパーの駐車場で、拳動のあやしい高齢運転者をよく見かける。送迎バスの運行等、企業努力だけに頼らずに、働きかけができないだろうか。 ・mustの考えではなく柔らかな考え方で、まず「話を聞いてもらう」「聞いてあげる」環境を作ってほしいです。高齢者の多い栄区だからこそ懐の大きい許容量の大きい、見守り隊を作ってほしいです。 ・亀井町に住んで50年以上になります。市バス等の市の交通とは無縁な交通の不便な所です。一度位交通の事に関して、真剣に考えてほしい。特に、先頃は、年老いた方が多くなり、バス停までも遠い。スローバスシステム（グリーンスローモビリティ）実証調査等の検証など導入してほしい。坂道がきついため、年寄りには本当にきついです。
自殺予防対策	3	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺についての問、むずかしいです。思う所、多々ありますが、関係機関の横つながりでの取組み、たのもしく思えます。 ・死を意識する事で生が充実する。無目的に生きるのではなく、どう死ぬか考える事で、過程としての生き方に意味を持たせる事につながる。
こどもの安全	2	<ul style="list-style-type: none"> ・子供達には怪我や失敗を繰り返して欲しですが取り返しがつかない怪我や失敗が無い様、遠くから見守って行ける社会を皆で創り出せたら良いなと思えます。 ・子供の遊ぶ場所（外）がもっと必要だと思う
交通安全	2	<ul style="list-style-type: none"> ・夜道が暗いのので街灯をつけてほしい。自転車専用レーンをつくってほしいです。震災時用の備蓄品を事前に配付してほしい。 ・横浜南環状線の完成等による交通事故防止対策にも取り組んでいただければと思います。
防犯対策	1	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防犯連絡所の存在に付いてどの様な活動をしているのか。
子育て支援と虐待の防止	1	<ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待を減らす取り組みは、重要だと思うが、母親をまるで取り締まるような、監視して逃げ場がないような風潮を心苦し思う。（その前にできるサポートがあるはず）自分も、母親が若く死んで、年子を一人で育てていただけ、周囲の人のサポートがもっともっとないと、子育てする人をまずは支援してくれるしくみが充実しないと苦しい。子育て中に主人の助けがなかったら（育児をとってくれた）、うつになっていたと思う。死にたくなかったかもしれない。
総計	83	